

BMC Configuration

ユーザーズガイド

第1章 概要

第2章 動作環境

第3章 インストール

第4章 機能

第5章 機能(ftサーバ)

第6章 機能(メニーコアサーバ)

第7章 注意事項

目次

表紙.....	1
目次.....	2
商標.....	4
本ソフトウェアが利用している外部ライブラリ	5
本書について	6
1. 概要	7
1.1 BMC Configurationの機能	7
1.1.1 Express5800 シリーズ.....	7
1.1.2 Express5800/ftサーバ.....	8
1.1.3 Express5800/メニーコアサーバ.....	8
2. 動作環境.....	9
2.1 ハードウェア	9
2.2 オペレーティングシステム	9
2.3 サーバマネージメントドライバ	10
3. インストール.....	11
3.1 BMC Configurationのインストール(Windows)	11
3.1.1 インストールを始める前に	11
3.1.2 インストールメニューの起動	11
3.1.3 BMC Configurationのインストール	12
3.2 BMC Configurationのアンインストール(Windows)	14
3.2.1 アンインストールを始める前に	14
3.2.2 BMC Configurationのアンインストール	14
3.3 BMC Configurationのインストール(Linux).....	15
3.3.1 インストールを始める前に	15
3.3.2 インストーラのコピーと展開	15
3.3.3 BMC Configurationのインストール	16
3.4 BMC Configurationのアンインストール(Linux).....	17
3.4.1 アンインストールを始める前に	17
3.4.2 BMC Configurationのアンインストール	17
4. 機能	18
4.1 起動方法	18
4.1.1 Windows	18
4.1.2 Linux	19
4.1.3 Off-line TOOL.....	19
4.2 BMC設定	20
4.2.1 ネットワーク	20
4.2.2 サービス	23
4.2.3 ユーザアカウント	24
4.2.4 ユーザ	25
4.2.5 Active Directory	26
4.2.6 グループ	28
4.2.7 LDAP.....	29
4.2.8 メール通報	30
4.2.9 SNMP通報	32
4.2.10 システム操作	34
4.2.11 ECO	36
4.2.12 ECO情報	40
4.2.13 制御	43
4.2.14 その他	44

4.2.15 拡張設定	46
4.3 BIOS設定	48
4.4 バッテリー設定	50
4.4.1 バッテリーバック情報	50
4.4.2 バッテリーコントローラ情報	52
4.4.3 バッテリーコントローラ設定	53
4.5 バックアップ	54
4.6 リストア	55
4.7 BMCのSEL消去	56
4.8 BMC設定の初期化	56
4.9 BMCのリセット	56
5. 機能(ftサーバ).....	57
5.1 起動方法	57
5.1.1 Windows	57
5.1.2 Off-line TOOL	58
5.2 BMCコンフィグレーション設定	59
5.2.1 ネットワーク	59
5.2.2 サービス	62
5.2.3 ユーザアカウント	63
5.2.4 ユーザ	64
5.2.5 Active Directory	65
5.2.6 グループ	67
5.2.7 LDAP	68
5.2.8 メール通報	69
5.2.9 SNMP通報	71
5.2.10 システム操作	73
5.2.11 制御	75
5.2.12 その他	76
5.3 バックアップ	78
5.4 リストア	79
5.5 BMC設定の初期化	80
5.6 BMCのリセット	80
6. 機能(メニーコアサーバ).....	81
6.1 起動方法	81
6.1.1 Windows	81
6.1.2 Linux	82
6.2 ESMPROからの管理設定	83
7. 注意事項	84
7.1 BMC Configurationのインストール	84
7.2 HTTP、HTTPS設定	84
7.3 リダイレクション設定	84
7.4 PEF設定とSNMP通報設定	84
7.5 BMC通報	84
7.6 通報テスト	85
7.7 ECO設定	85
7.8 管理用LAN設定	85
7.9 その他設定	85
7.10 ネットワーク設定、サービス設定	85
7.11 デフォルト設定	85
7.12 キー入力	85

商標

EXPRESSBUILDER と ESMPRO、EXPRESSSCOPE は日本電気株式会社の登録商標です。Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Linux は Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Red Hat、Red Hat Enterprise Linux は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。Novell、Novell ロゴ、および SUSE は、米国およびその他の国における米国 Novell, Inc. の登録商標です。Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

Windows Server 2012 R2 は、Microsoft® Windows Server® 2012 R2, Standard operating system および Microsoft® Windows Server® 2012 R2, Datacenter operating system の略称です。Windows Server 2012 は、Microsoft® Windows Server® 2012 Standard operating system および Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter operating system の略称です。Windows Server 2008 R2 は、Microsoft® Windows Server® 2008 R2, Standard operating system、Microsoft® Windows Server® 2008 R2, Enterprise operating system および Microsoft® Windows Server® 2008 R2, Datacenter operating system の略称です。Windows Server 2008 は、Microsoft® Windows Server® 2008 Standard operating system、Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise operating system、Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter operating system、Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32-Bit operating system、Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32-Bit operating system および Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 32-Bit operating system の略称です。Windows Server 2003 x64 Editions は Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition operating system および Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition operating system または、Microsoft® Windows Server® 2003 Standard x64 Edition operating system および Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise x64 Edition operating system の略称です。Windows Server 2003 は Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition operating system および Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition operating system または、Microsoft® Windows Server® 2003 Standard Edition operating system および Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise Edition operating system の略称です。

本ソフトウェアが利用している外部ライブラリ

本製品には、第三サプライヤー(以下「サプライヤー」)から提供されるライブラリ(以下「外部ライブラリ」)が含まれています。本製品をご利用になる前に、以下に示される外部ライブラリの該当ライセンスファイル及び NOTICE ファイルをお読みになり、それらに記載された内容にご同意された場合のみ本製品をご利用ください。「外部ライブラリ」のライセンスファイル及び NOTICE ファイルは以下に格納されています。

- /bmc_config/doc/

「外部ライブラリ」のライセンスにより、ソースコードの提供が必要なものについては、以下に格納されています。

- /bmc_config/src/

なお、これら「外部ライブラリ」に対しては、お客様が日本電気株式会社(以下「NEC」)と締結されました条項に関わらず、以下の条件が適用されます。

- a) サプライヤーは「外部ライブラリ」を提供しますが、いかなる保障も提供しません。サプライヤーは、「外部ライブラリ」に関して、法律上の瑕疵担保責任を含め、第三者の権利の非侵害の保証、商品性の保証、特定目的適合性の保証、名称の保証を含むすべての明示または黙示のいかなる保証責任も負わないものとします。
- b) サプライヤーは、データの喪失、節約すべかりし費用および逸失利益など「外部ライブラリ」に関するいかなる直接的、間接的、特別、偶発的、懲罰的、あるいは結果的損害に対しても責任を負わないものとします。
- c) NEC 及びサプライヤーは、「外部ライブラリ」に起因又は「外部ライブラリ」に関するいかなる請求についても、お客様を防御することなく、お客様に対していかなる賠償責任または補償責任も負わないものとします。

以下は、本製品が利用している「外部ライブラリ」および Copyright の一覧です。

libnewt, libslang : Copyright (c) 1991 Free Software Foundation, Inc.

json-c : Copyright (c) 2004, 2005 Metaparadigm Pte. Ltd.

zlib : Copyright (c) 1995-2005 Jean-loup Gailly and Mark Adler

■ ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

本書について

本書では、「BMC Configuration」のインストール、管理対象サーバの設定手順について説明しています。

BMC Configuration をご使用になる前に本書をよくお読みになり、正しくお使いになるようお願い申し上げます。

■ ご注意

本書での内容は、対象 OS の機能、操作方法、ネットワークの機能、設定方法について十分に理解されている方を対象に説明しています。対象 OS に関する操作および不明点については、各 OS のオンラインヘルプなどを参照してください。

本書では、管理対象サーバ全般について、汎用的に説明しています。管理対象サーバの製品別の注意事項や制限事項は、管理対象サーバに添付されているユーザーズガイドまたは「ESMPRO/ServerManager Ver.5 セットアップガイド」を参照してください。

本書に掲載されている画面イメージ上に記載されている名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。また、画面イメージ上の設定値は例であり、IP アドレスなどの設定値についての動作保証を行うものではありません。

■ 本書中の記号について

本文中では次の 3 種類の記号を使用しています。それぞれの意味を示します。

- | | |
|--------------|---|
| 重要： | ソフトウェア、装置を取り扱う上で守らなければならない事柄、特に注意すべき点を示します。 |
| チェック： | ソフトウェア、装置を取り扱う上で確認しておく必要がある点を示します。 |
| ヒント： | 知っておくと役に立つ情報、便利なことなどを示します。 |

1. 概要

BMC Configuration は、管理対象サーバ上で動作するソフトウェアであり、管理対象サーバ上の BMC をコンフィグレーションします。

1.1 BMC Configurationの機能

1.1.1 Express5800 シリーズ

- **BMC 設定**
管理対象サーバの BMC にコンフィグレーション情報を設定することができます。
- **BIOS 設定**
管理対象サーバのシステム BIOS を設定することができます。
設定した値は、装置を再起動することで有効になります。
- **バッテリー設定**
装置がバッテリーを搭載している場合、バッテリーパック及びバッテリーコントローラの情報を表示、設定することができます。
- **バックアップ**
管理対象サーバに設定されているコンフィグレーション情報を、ファイルに出力することができます。
- **リストア**
ファイルにバックアップしたコンフィグレーション情報を、管理対象サーバに適用することができます。
- **BMC の SEL 消去**
BMC の SEL(システムイベントログ)情報を消去することができます。
- **BMC 設定の初期化**
BMC のコンフィグレーション情報を、工場出荷時の状態に戻すことができます。
- **BMC のリセット**
装置を再起動することなく、BMC の再起動を行うことができます。
- **システム情報 (バージョン情報)**
BMC Firmware、Boot Firmware、センサ装置情報(SDR)、システム BIOS 等の各バージョン情報を表示します。

1.1.2 Express5800/ftサーバ

- **BMC コンフィグレーション**
管理対象サーバの BMC にコンフィグレーション情報を設定することができます。
- **バックアップ**
管理対象サーバのシステム情報(FRU, BIOS, BMC)を、ファイルに出力することができます。
- **リストア**
ファイルにバックアップしたシステム情報(FRU, BIOS, BMC)を、管理対象サーバに適用することができます。

1.1.3 Express5800/メニーコアサーバ

- **ESMPRO 管理用設定**
管理対象サーバの BMC に ESMPRO/ServerManager から管理するための認証キーを設定することができます。

2. 動作環境

2.1 ハードウェア

以下の条件を満たしている必要があります。

- **対象装置**
 - ・ EXPRESSSCOPE エンジン 3 搭載の Express5800 シリーズおよび iStorage NS シリーズ
 - ・ EXPRESSSCOPE エンジン SP3 搭載の Express5800 シリーズ
 - ・ メニーコアサーバ(Express5800/HR120a-1, HR120b-1)
- **メモリ**
512MB 以上
- **ハードディスクドライブの空き容量**
100MB 以上

チェック：

- ft サーバ(Express5800/R320c-M4、R320c-E4 及び R310c-E4)は、BMC Configuration (Windows) Ver.1.20 以降でのサポートとなります。
 - ECO CENTER(Express5800/E120d-1、E120d-M 及び E110d-M)は、BMC Configuration (Windows) Ver.1.21 以降でのサポートとなります。
 - メニーコアサーバ(Express5800/HR120a-1 及び HR120b-1)は、BMC Configuration (Windows) Ver.1.33 以降及び BMC Configuration (Linux) Ver.1.31 以降でのサポートとなります。
 - EXPRESSSCOPE エンジン SP3 は、BMC Configuration (Windows/Linux) Ver.1.40 以降でのサポートとなります。
-

2.2 オペレーティングシステム

以下の OS が対象です。

- **Windows**
 - Microsoft Windows Server 2003 R2, Standard Edition/Enterprise Edition
 - Microsoft Windows Server 2003 R2, Standard/Enterprise x64 Edition
 - Microsoft Windows Server 2008 Standard/Enterprise
 - Microsoft Windows Server 2008 Standard/Enterprise/Datacenter x64 Edition
 - Microsoft Windows Server 2008 R2, Standard/Enterprise/Datacenter
 - Microsoft Windows Server 2012 Standard/Datacenter
 - Microsoft Windows Server 2012 R2, Standard/Datacenter
- **Linux**
 - Red Hat Enterprise Linux Advanced Platform 5 (x86, x64)
 - Red Hat Enterprise Linux Server 5 (x86, x64)
 - Red Hat Enterprise Linux Server 6 (x86, x64)
 - Red Hat Enterprise Linux Server 7 (x64)
 - SUSE Linux Enterprise Server 10 (SP3) (x86, x64)
 - SUSE Linux Enterprise Server 11 (SP2, SP3) (x86, x64)
 - Oracle Linux 6 (x64)

重要：

- 以下の環境の場合、BMC Configuration のインストールをサポートしていません。
 - ・仮想マシンのゲスト OS へのインストール
 - BMC Configuration を Red Hat Enterprise Linux Server 6 (x64)、Red Hat Enterprise Linux Server 7 (x64)、または、Oracle Linux 6 (x64)で使用する場合は、以下のパッケージが必要です。これらがインストールされていない場合は、OS のインストールディスクから追加でインストールしてください。
 - ・ glibc(i686 版)
 - ・ nss-softokn-freebl(i686 版)
 - ・ libxml2(i686 版)
 - ・ zlib(i686 版)
-

チェック：

- Red Hat Enterprise Server 7 は、BMC Configuration (Linux) Ver.1.41 以降でのサポートとなります。
-

2.3 サーバマネージメントドライバ

OS が Linux の場合、BMC Configuration を利用するためには、OpenIPMI ドライバが動作している必要があります。

チェック：

- OpenIPMI ドライバが、Linux 上にインストールされているかどうかは、以下のコマンドで確認できます。

```
rpm -qa | grep -i OpenIPMI
```
- OpenIPMI ドライバが停止している場合は、OpenIPMI ドライバを開始状態にする必要があります。OpenIPMI ドライバの状態は、以下のコマンドで確認できます。

```
/etc/init.d/ipmi status
```

コマンドの実行後、画面に「not loaded」と表示されている場合は、以下のコマンドで OpenIPMI ドライバを開始状態にしてください。

```
/etc/init.d/ipmi start
```

また、以下のコマンドを実行し、OS を再起動することで、OS の起動時に OpenIPMI ドライバを自動的に開始状態にすることができます。

```
chkconfig ipmi on
```

3. インストール

3.1 BMC Configurationのインストール(Windows)

BMC Configuration をインストールする場合について説明します。

3.1.1 インストールを始める前に

BMC Configuration のインストールを始める前に、以下のことを確認してください。

- ・ 2 章の動作環境を満たしていること。
- ・ 管理者(Administrator)権限で Windows にログインしていること。

3.1.2 インストールメニューの起動

■ ダウンロードしたモジュールを使ってインストールする場合

ダウンロードしたファイルを展開した後に、以下のファイルを実行してください。BMC Configuration のインストールが開始されます。

¥bmc_config¥setup.exe

■ EXPRESSBUILDER を使ってインストールする場合

以下の手順で BMC Configuration のインストールを実行してください。

- (1) Windows が起動している管理対象サーバ上で、EXPRESSBUILDER を DVD ドライブにセットしてください。オートラン機能によりメニューが表示されます。

.....
ヒント:

- オートランメニューが起動しないときは、EXPRESSBUILDER の ¥autorun¥dispatcher.exe (64 ビット版: dispatcher_x64.exe) をダブルクリックして、オートランメニューを手動で起動してください。
 - 装置選択画面が表示された場合は、該当する装置を選択してください。
-

- (2) 「各種アプリケーション」または「ソフトウェアをセットアップする」- 「BMC Configuration」をクリックしてください。BMC Configuration のインストールが開始されます。

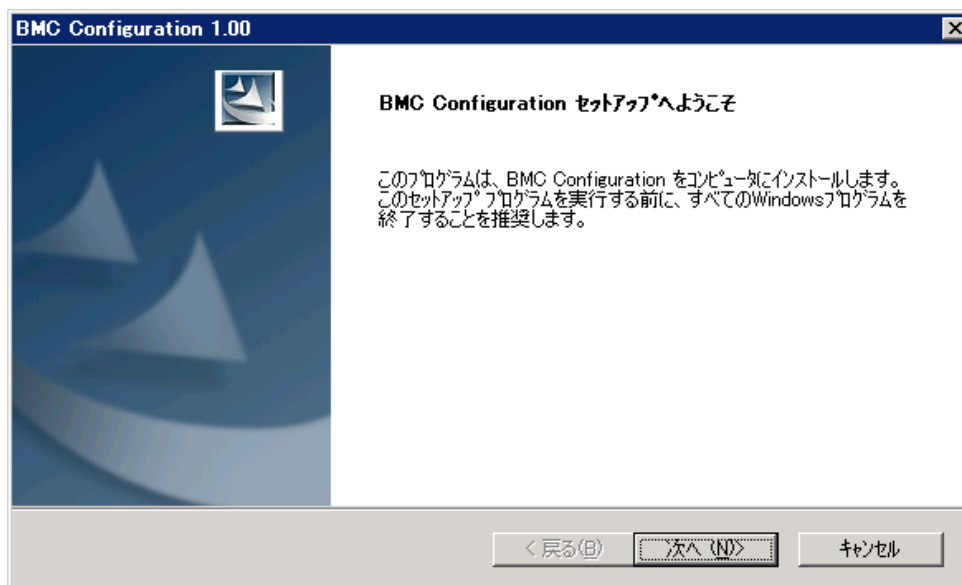
.....
ヒント:

- インストール時の注意事項については、7.1 「BMC Configurationのインストール」を参照してください。
-

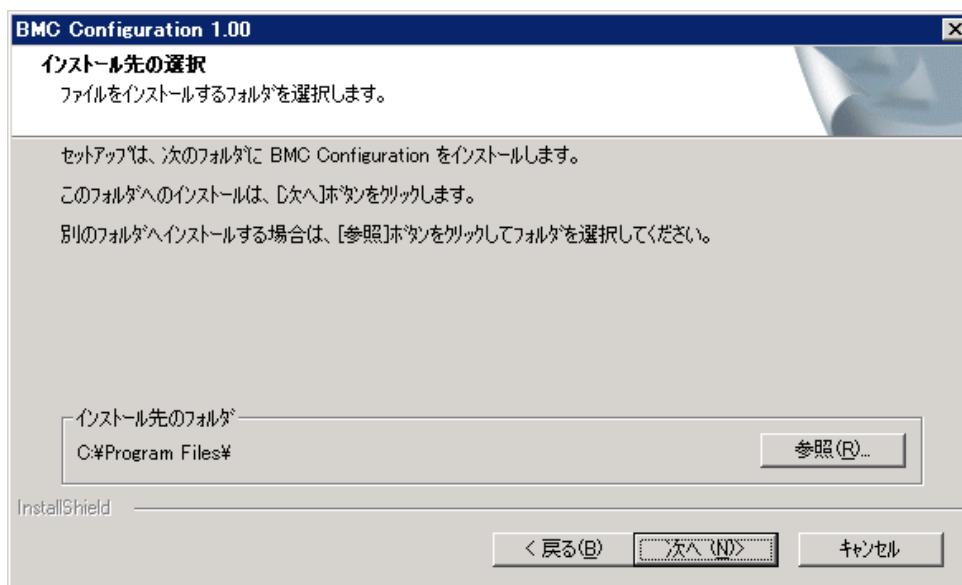
3.1.3 BMC Configurationのインストール

BMC Configuration をインストールします。

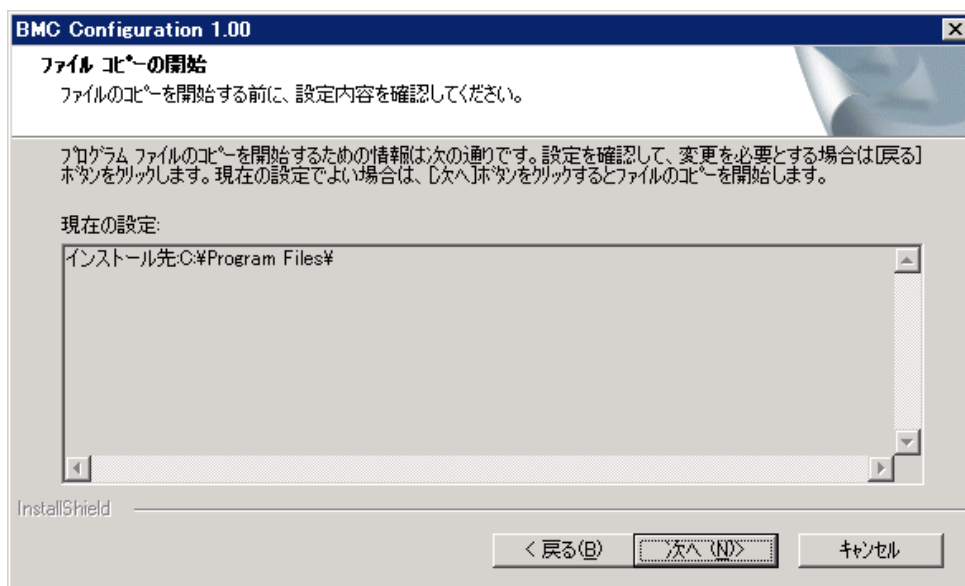
- (1) BMC Configuration のインストーラが起動します。「次へ」ボタンをクリックしてください。



- (2) インストール先のディレクトリ名を入力し、「次へ」ボタンをクリックしてください。



- (3) 設定した内容を確認し、「次へ」ボタンをクリックしてください。インストールが開始されます。



インストール完了後、BMC コンフィグレーションが実行できます。

3.2 BMC Configurationのアンインストール(Windows)

BMC Configuration をアンインストールする場合について説明します。

3.2.1 アンインストールを始める前に

BMC Configuration のアンインストールを始める前に、以下のことを確認してください。

- ・ 管理者(Administrator)権限で Windows にログインしていること。

3.2.2 BMC Configurationのアンインストール

Windows の「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」からアンインストールします。
「BMC Configuration」を選択し、「変更と削除」ボタンをクリックしてください。表示される指示に従ってアンインストールしてください。

チェック：

- BMC Configuration のダイアログボックスが起動していないことを確認後、アンインストールしてください。
-

3.3 BMC Configurationのインストール(Linux)

BMC Configuration をインストールする場合について説明します。

3.3.1 インストールを始める前に

BMC Configuration のインストールを始める前に、以下のことを確認してください。

- ・ 2 章の動作環境を満たしていること。
- ・ root ユーザでログインすること。

チェック：

- BMC Configuration インストーラの格納場所は下記の通りです。
 - ・ ダウンロードしたモジュールを使ってインストールする場合：/bmc_config
 - ・ EXPRESSBUILDER の場合：<レビジョンフォルダ>/lnx/pp/bmc_config<レビジョンフォルダ>はオートランメニューに表示されるバージョンの括弧内を参照してください。
(例：Version 6.10-020.05 (024)の場合は 024/lnx/pp/bmc_config)
-

3.3.2 インストーラのコピーと展開

BMC Configuration インストーラ(/bmc_config ディレクトリに格納されているすべてのファイル及びディレクトリ)を、管理対象サーバの任意のディレクトリにコピーしてください。

以下は /usr/local/bin にコピーする場合の例です。

- (1) BMC Configuration インストーラを/usr/local/bin にコピーしてください。
以下は EXPRESSBUILDER からコピーする場合の例です。(OS の種類によってマウント先が異なる場合があります。適切なマウント先を指定してください。)

```
cp -r /mnt/cdrom/001/lnx/pp/bmc_config /usr/local/bin
```

- (2) インストーラをコピーしたディレクトリに移動してください。

```
cd /usr/local/bin/bmc_config
```

- (3) インストーラを展開してください。

```
tar xzvf BMCConfiguration-N.NN-x.tgz
```

ファイル名の「N.NN」で示した部分は、バージョンごとに異なります。

ヒント：

- インストール時の注意事項については、7.1「BMC Configurationのインストール」を参照してください。
-

3.3.3 BMC Configurationのインストール

BMC Configuration をインストールします。

- (1) インストーラを展開したディレクトリに移動してください。

```
cd /usr/local/bin/bmc_config/BMCConfiguration-N.NN-x
```

ディレクトリ名の「N.NN」で示した部分は、バージョンごとに異なります。

- (2) インストール用シェルスクリプトを実行してください。

```
./BMCConfiguration-N.NN-x.sh
```

ファイル名の「N.NN」で示した部分は、バージョンごとに異なります。

- (3) BMC Configuration のインストール確認が表示されます。「yes」を入力し、Enter キーを押してください。BMC Configuration は/opt/nec/BMC_Configuration 下にインストールされます。「no」を入力した場合、インストールされません。

インストールが完了した場合、以下のメッセージが表示されます。

「BMC Configuration のインストールが完了しました。」

インストール完了後、BMC コンフィギュレーションが実行できます。

.....

チェック：

- インストール時に使ったファイルは、アンインストール時にも使いますので、削除しないでください。
-

3.4 BMC Configurationのアンインストール(Linux)

BMC Configuration をアンインストールする場合について説明します。

3.4.1 アンインストールを始める前に

BMC Configuration のアンインストールを始める前に、以下のことを確認してください。

- ・ root ユーザでログインすること。

3.4.2 BMC Configurationのアンインストール

BMC Configuration をアンインストールします。

- (1) インストーラをコピーしたディレクトリに移動します。

```
cd /usr/local/bin/bmc_config/BMCConfiguration-N.NN-x
```

ディレクトリ名の「N.NN」で示した部分は、バージョンごとに異なります。

- (2) アンインストール用のシェルファイルを実行します。

```
./BMCConfiguration-N.NN-x.sh
```

ファイル名の「N.NN」で示した部分はバージョンごとに異なります。

- (3) BMC Configuration のアンインストール確認が表示されます。「delete」を入力し、Enter キーを押してください。

アンインストールが完了した場合、以下のメッセージが表示されます。

「BMC Configuration のアンインストールが完了しました。」

4. 機能

この章では BMC Configuration を標準的なサーバで使用する場合の機能について説明します。
ft サーバについては、5 章を参照してください。
メニーコアサーバについては、6 章を参照してください。

4.1 起動方法

4.1.1 Windows

以下の方法で BMC Configuration のメインダイアログボックスを起動できます。
管理者(Administrator)権限で実行してください。

・ Windows のスタートメニューから、「BMC_Configuration」 - 「BMC Configuration」をクリックする。

以下は画面例です。

EXPRESSSCOPE エンジン 3 の場合：



EXPRESSSCOPE エンジン SP3 の場合：



チェック：

- バッテリー設定は、バッテリー搭載装置の場合のみ表示されます。
 - バッテリー設定は、以下のバージョンでのサポートとなります。
- BMC Configuration (Windows) Ver.1.30 以降
-

ヒント：

- BMC Configuration のヘルプは、以下から参照することができます。

Windows のスタートメニューから、「BMC_Configuration」 - 「BMC Configuration Help」をクリックする。

4.1.2 Linux

以下の方法で BMC Configuration を起動できます。

root ユーザで実行してください。

日本語を表示できるターミナルの場合 (以下は文字コードが UTF-8 の場合)：

```
LANG=ja_JP.UTF-8  
/opt/nec/BMC_Configuration/bmcconf -ja
```

日本語を表示できないターミナルの場合：

```
/opt/nec/BMC_Configuration/bmcconf
```

ヒント：

- BMC Configuration のヘルプは、以下から参照することができます。

BMC Configuration を起動後、画面下部に「[F12] ヘルプ」と表示されている画面で、「F12」キーを押す。

4.1.3 Off-line TOOL

Off-line TOOL は、以下で起動します。

(1) POST 画面表示中に、次のようなメッセージが画面下に表示されます。

```
Press<F2> SETUP, <F3> Internal flash memory, <F4> ROM Utility, <F12> Network
```

(2) ここで<F4>キーを押します。<F4>キーを押すと、POST 画面終了後にキーボード選択画面が表示され、キーボード選択後に Off-line TOOL のメニューが表示されます。

(3) BMC Configuration を選択します。

ヒント：

- Off-line TOOL は、装置に標準で搭載されています。
- 装置によっては Off-line TOOL のメニューが表示されずに、BMC Configuration が起動します。
- ヘルプは、以下から参照することができます。

ツールを起動後、Help メニューを選択、または、画面下部に[Help:[Home or ?]]と表示されている画面で、「Home」キー、「？」キーのどちらかを押す。

4.2 BMC設定

以下に、BMC のコンフィグレーション項目を示します。
Windows 版の BMC Configuration の画面に従って説明します。

4.2.1 ネットワーク

BMC で使用するネットワーク環境の表示と設定を行います。
EXPRESSSCOPE エンジン SP3 の場合、"ネットワーク(マスタ)" または "ネットワーク(スタンバイ)" となります。

The screenshot shows the 'BMC コンフィグレーション' window with the 'ネットワーク' tab selected. The '管理用LAN設定' section is active. The settings are as follows:

項目	設定値
管理用LAN	Management LAN
通信タイプ	Auto Negotiation
BMC MACアドレス	6C:F0:49:56:94:53
DHCP	☒ 有効 ☐ 無効
IPアドレス [必須]	192.168.14.77
サブネットマスク [必須]	255.255.254.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
ダイナミックDNS	☒ 有効 ☐ 無効
DNSサーバ	
ホスト名	
ドメイン名	

Buttons at the bottom: デフォルト設定, 適用, キャンセル.

The screenshot shows the 'BMC コンフィグレーション' window with the 'ネットワーク' tab selected. The 'アクセス制限設定' section is active. The settings are as follows:

項目	設定値
サブネットマスク [必須]	255.255.254.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
ダイナミックDNS	☒ 有効 ☐ 無効
DNSサーバ	
ホスト名	
ドメイン名	
制限タイプ	☒ 制限なし ☐ 許可アドレス ☐ 拒否アドレス
IPアドレス [必須]	

Buttons at the bottom: デフォルト設定, 適用, キャンセル.

Footnote text at the bottom of the window:

- *コンマ(,)を使用して、IPアドレスを区切ってください。
- *拒否アドレスは、ワイルドカード(*)での指定が可能です。

項目名	意味	デフォルト値
管理用 LAN 設定	管理用 LAN の設定です。	
管理用 LAN	BMC が使用する LAN ポートを表示、設定します。本設定の変更は、Off-line TOOL の BMC Configuration でのみ可能です。 *1 *2 Management LAN : BMC 専用の LAN ポートを使用します。 Shared BMC LAN : システム(OS)の LAN ポートを共有して使用します。	Management LAN
通信タイプ	管理用 LAN の通信タイプを表示、設定します。管理用 LAN が "Shared BMC LAN" の場合、本設定の変更は Off-line TOOL の BMC Configuration でのみ可能です。 *1 Auto Negotiation : 最適な設定で通信します。 1Gbps Full : 1Gbps の速度で、全二重通信します。 *10 1Gbps Half : 1Gbps の速度で、半二重通信します。 *10 100Mbps Full : 100Mbps の速度で、全二重通信します。 100Mbps Half : 100Mbps の速度で、半二重通信します。 10Mbps Full : 10Mbps の速度で、全二重通信します。 10Mbps Half : 10Mbps の速度で、半二重通信します。	Auto Negotiation
BMC MAC アドレス	管理用 LAN の MAC アドレスを表示します。	
DHCP	管理用 LAN が DHCP サーバから IP アドレスを自動的に取得する機能の有効 / 無効を指定します。有効を指定した場合、登録後に「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」の項目に BMC が DHCP サーバから取得した値が設定されます。	ブレードサーバ : 有効 その他のサーバ : 無効
IP アドレス	管理用 LAN の IP アドレスを設定します。 *4	192.168.1.1 [*11]
サブネットマスク	管理用 LAN のサブネットマスクを設定します。 *3 *4	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	管理用 LAN のデフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定します。 *4 この項目を設定した場合は、ゲートウェイをネットワークに接続した状態でコンフィグレーション情報を登録してください。	0.0.0.0
ダイナミック DNS	ダイナミック DNS の有効 / 無効を選択します。 *5 *12	無効
DNS サーバ	DNS サーバを設定します。 *12	0.0.0.0
ホスト名	ホスト名を設定します。 *6 *7 *12	空白
ドメイン名	ドメイン名を設定します。 *7 *12	空白
GUID	管理用 LAN の GUID を表示します。 *10 *12	
アクセス制限設定	アクセス制限の設定です。 *12	
制限タイプ	制限タイプを選択します。 制限無し : BMC へのアクセスを制限しません。 許可アドレス : BMC へのアクセスを許可する IP アドレスを設定します。 拒否アドレス : BMC へのアクセスを拒否する IP アドレスを設定します。	制限なし

IP アドレス	管理用 LAN へのアクセスを許可または拒否する IP アドレスを設定します。 *8 *9	空白
---------	---	----

- *1: 装置が変更をサポートしている場合にのみ設定できます。
- *2: 変更した場合は、装置によっては BMC のリセットを実施する必要があります。"Shared BMC LAN" を設定した場合、BMC 専用の LAN ポートは使用できません。"Shared BMC LAN" を設定した場合、システム(OS)の LAN ポートを共有して使用するために、システム(OS)の LAN の負荷により BMC が使用する LAN の性能が低下する可能性があります。また、BMC が使用する LAN の負荷によりシステム(OS)の LAN の性能が低下する可能性があります。
- *3: サブネットマスクとして不正な値を設定した場合は、「BMC 情報の設定に失敗しました」というエラーメッセージが表示されて設定できません。
- *4: DHCP が "無効" の場合にのみ設定できます。
- *5: DHCP が "有効" の場合にのみ設定できます。
- *6: ホスト名は 63 文字まで設定が可能です。64 文字以上入力した場合は切り捨てて設定されます。
- *7: ホスト名とドメイン名は、合わせて 255 文字以内で設定してください。
- *8: "許可" または "拒否" する IP アドレスの範囲を、"(カンマ)" で区切って記載します。"拒否" の場合は、ワイルドカードとして "*" を使用できます。(例: "192.168.1.*,192.168.2.1,192.168.2.254")
- *9: 制限タイプが "許可" または "拒否" の場合にのみ設定できます。255 文字まで設定可能です。
- *10:EXPRESSSCOPE エンジン SP3 の場合にのみ表示または設定できます。
- *11:EXPRESSSCOPE エンジン SP3 の場合、"192.168.1.100" または "192.168.1.101" となります。
- *12:EXPRESSSCOPE エンジン SP3 の場合、マスタのみ表示または設定できます。

4.2.2 サービス

BMC が使用するサービスの種類一覧の表示と設定を行います。
EXPRESSSCOPE エンジン SP3 の場合、"サービス(マスタ)" となります。

BMC エンフィニティ

システム操作 | ECO | 制御 | その他

ネットワーク | サービス | ユーザーアカウント | Active Directory | LDAP | メール通報 | SNMP通報

*本画面の設定を変更すると、BMCとの通信が切断される場合があります。

Webサーバ設定

HTTP ☒ 有効 ☐ 無効

HTTPポート番号 [必須] 80 (1 - 65535)

HTTPS ☐ 有効 ☒ 無効

HTTPSポート番号 [必須] 443 (1 - 65535)

*HTTPのみを有効に設定することはできません。

SSH設定

SSH ☒ 有効 ☐ 無効

SSHポート番号 [必須] 22 (1 - 65535)

デフォルト設定 適用 キャンセル

項目名	意味	デフォルト値
Web サーバ設定	Web サーバの設定です。	
HTTP	HTTP の有効 / 無効を選択します。 *1	有効
HTTP ポート番号	HTTP ポート番号を設定します。 *2 *3	80
HTTPS	HTTPS の有効 / 無効を選択します。	有効
HTTPS ポート番号	HTTPS ポート番号を設定します。 *2 *3	443
SSH 設定	SSH の設定です。	
SSH	SSH の有効 / 無効を選択します。	有効
SSH ポート番号	SSH ポート番号を設定します。 *2 *3	22

- *1: HTTP を有効にすると、HTTPS も自動で有効となります。HTTP だけを有効にすることはできません。
- *2: 各ポートが有効の場合にのみ設定できます。
- *3: 各ポート番号は重複させることができません。

4.2.3 ユーザアカウント

BMC を利用するユーザ設定の管理を行います。最大 12 ユーザまで登録することができます。

項目名	意味
ユーザアカウント設定	登録されているユーザの一覧を表示します。
No	ユーザに割り当てられている番号を表示します。
ユーザ名	ユーザ名を表示します。
権限	ユーザの権限を表示します。
編集	ユーザ情報を追加または変更します。
削除	ユーザ情報を削除します。 *1

*1: ユーザが存在する場合にのみ削除可能です。

.....

チェック：

- Off-line TOOL では、ユーザの削除は、次のユーザ設定画面で行います。
-

4.2.4 ユーザ

選択したユーザの設定を行います。

項目名	意味	デフォルト値
ユーザ設定	ユーザの設定です。	
ユーザ	ユーザの有効 / 無効を選択します。 *1	有効
ユーザ名	ユーザ名を設定します。 *2	空白
パスワード	パスワードを設定します。 *3	空白
確認パスワード	確認用にパスワードと同じ文字を設定します。 *3	空白
権限	ユーザの権限を選択します。 *4 アドミニストレータ オペレータ ユーザ	アドミニストレータ

- *1: ユーザが存在する場合にのみ設定可能です。
- *2: 15 文字までの半角英数字、「-」及び「_」のみ設定することができます。ただし、「-」はユーザ名の先頭には使用できません。また、「root」、「null」、「MWA」、「AccessByEM-Poem」、「Maintenance」及び既に他の番号に登録されている名前は使用できません。
- *3: 19 文字までの半角英数字で、「 」(空白)、「"」、「&」、「?」、「=」、「#」及び「¥」を除く ASCII 文字列を設定することができます。
- *4: 権限は以下の通りです。

権限	意味
アドミニストレータ	管理者権限を持つユーザです。全ての操作を行えます。
オペレータ	装置の操作を行えるユーザです。セッション管理、ライセンス登録、リモート KVM/メディア、設定全般、アップデートは行えません。
ユーザ	一般的なユーザです。IPMI 情報を表示する以外の操作は行えません。

4.2.5 Active Directory

Active Directory に関する表示と設定を行います。

BMC コンフィグレーション

システム操作 | ECO | 制御 | その他
ネットワーク | サービス | ユーザーアカウント | Active Directory | LDAP | メール通報 | SNMP通報

プロパティ設定

Active Directory 認証 ☒ 有効 ☐ 無効

ユーザドメイン名 **【必須】**

タイムアウト **【必須】** 秒 (15 - 300)

☒ ドメインコントローラサーバアドレス1 **【必須】**

☐ ドメインコントローラサーバアドレス2 **【必須】**

☐ ドメインコントローラサーバアドレス3 **【必須】**

グループ設定

No	グループ名	グループドメイン	権限	操作
1				編集 削除
2				編集 削除
3				編集 削除
4				編集 削除
5				編集 削除

デフォルト設定

項目名	意味	デフォルト値
プロパティ設定	Active Directory の設定です。	
Active Directory 認証	Active Directory 認証の有効 / 無効を選択します。	無効
ユーザドメイン名	ユーザドメイン名を設定します。 *1 *2	空白
タイムアウト	ドメインコントローラとの接続タイムアウト時間を設定します。 *1	120
ドメインコントローラサーバ 1	ドメインコントローラサーバ 1 の有効 / 無効を選択します。 *1 *3	有効
サーバアドレス 1	ドメインコントローラサーバ 1 の IP アドレスを設定します。 *1 *4	空白
ドメインコントローラサーバ 2	ドメインコントローラサーバ 2 の有効 / 無効を選択します。 *1 *3	無効
サーバアドレス 2	ドメインコントローラサーバ 2 の IP アドレスを設定します。 *1 *4	空白
ドメインコントローラサーバ 3	ドメインコントローラサーバ 3 の有効 / 無効を選択します。 *1 *3	無効
サーバアドレス 3	ドメインコントローラサーバ 3 の IP アドレスを設定します。 *1 *4	空白

項目名	意味
グループ設定 *1	登録されているグループの一覧を表示します。
No	グループに割り当てられている番号を表示します。
グループ名	グループ名を表示します。
グループドメイン	Active Directory のドメイン名を表示します。
権限	グループの権限を表示します。
編集 *1	グループ情報を追加または変更します。
削除 *1 *5	グループ情報を削除します。

*1: Active Directory 認証が "有効" の場合にのみ設定できます。

*2: 255 文字までの半角英数字、「-」、「_」及び「.」のみ設定することができます。

*3: Active Directory 認証が "有効" の場合は、1 つ以上のドメインコントローラサーバを有効にする必要があります。

*4: ドメインコントローラサーバが "有効" の場合にのみ設定できます。

*5: グループが存在する場合にのみ削除可能です。

チェック：

- Off-line TOOL では、グループの削除は、次のグループ設定画面で行います。

4.2.6 グループ

選択したグループの設定を行います。Active Directory が有効の場合にのみ設定できます。最大 5 グループまで登録することができます。

グループ No.1

グループ設定

グループ名 [必須]

グループドメイン [必須]

権限

アドミニストレータ

デフォルト設定

OK

キャンセル

項目名	意味	デフォルト値
グループ設定	グループの設定です。	
グループ名	グループ名を設定します。 *1	空白
グループドメイン	グループドメインを設定します。 *2	空白
権限	グループの権限を選択します。 アドミニストレータ オペレータ ユーザ	アドミニストレータ

*1: 255 文字までの半角英数字、「-」及び「_」のみ設定することができます。
*2: 255 文字までの半角英数字、「-」、「_」及び「.」のみ設定することができます。

4.2.7 LDAP

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) に関する表示と設定を行います。

項目名	意味	デフォルト値
LDAP 設定	LDAP の設定です。	
LDAP 認証	LDAP 認証の有効 / 無効を選択します。	無効
IP アドレス	IP アドレスを設定します。 *1	0.0.0.0
ポート番号	LDAP ポート番号を設定します。 *1	636
サーチベース	LDAP 認証で使用するサーチベースを設定します。 *1 *2	空白
バインドドメイン名	LDAP 認証で使用するバインドドメインを設定します。 *1 *2	空白
バインドパスワード	LDAP 認証で使用するバインドパスワードを設定します。 *1 *3	空白

- *1: LDAP 認証が有効の場合にのみ設定できます。
- *2: 4 文字以上 62 文字以下の半角英数字、「-」,「_」,「.」,「,」及び「=」のみ設定することができます。
- *3: 4 文字以上 31 文字以下の半角英数字で、「"」,「#」及び「¥」を除く文字列を設定することができます。

4.2.8 メール通報

BMC からの E メールによる通報の表示と設定を行います。
EXPRESSSCOPE エンジン SP3 の場合、この設定はありません。

BMC エンフォース

システム操作 | ECO | 制御 | その他

ネットワーク | サービス | ユーザーアカウント | Active Directory | LDAP | **メール通報** | SNMP通報

メール通報設定

通報 ☐ 有効 ☒ 無効 通報テスト

SMTPサーバ応答待ち時間 **[必須]** 秒 (30 - 600)

メール設定

☒ 宛先 1(To) **[必須]**

☐ 宛先 2(To) **[必須]**

☐ 宛先 3(To) **[必須]**

差出人(From)

返信先(Reply-To)

件名(Subject)

SMTPサーバ設定

SMTPサーバ

*IPアドレス、または、ドメイン名を入力してください。

SMTPポート **[必須]** (1 - 65535)

デフォルト設定 適用 キャンセル

BMC エンフォース

システム操作 | ECO | 制御 | その他

ネットワーク | サービス | ユーザーアカウント | Active Directory | LDAP | **メール通報** | SNMP通報

SMTPポート **[必須]** (1 - 65535)

SMTP認証 ☐ 有効 ☒ 無効

☒ CRAM-MD5 ☒ LOGIN ☒ PLAIN

ユーザー名 **[必須]**

パスワード **[必須]**

通報レベル設定

通報レベル

	宛先1	宛先2	宛先3
温度(閾値監視)			
異常	☒	☒	☒
警告	☒	☒	☒
情報	☐	☐	☐
電圧(閾値監視)			
異常	☒	☒	☒
警告	☒	☒	☒
情報	☐	☐	☐
ファン(回転数)			
異常	☒	☒	☒
...			

デフォルト設定 適用 キャンセル

項目名	意味	デフォルト値
メール通報設定	メール通報の設定です。	
通報	通報の有効 / 無効を選択します。	無効
SMTP サーバ応答待ち時間	E メール送信を行って SMTP サーバへの接続が成功するまでのタイムアウト時間を設定します。	30
メール設定	メールヘッダの設定です。	
宛先 1 (To)	宛先 1 の有効 / 無効を選択します。 *1	有効
宛先 1 メールアドレス	宛先 1 のメールアドレスを設定します。 *2 *3	空白
宛先 2 (To)	宛先 2 の有効 / 無効を選択します。 *1	無効
宛先 2 メールアドレス	宛先 2 のメールアドレスを設定します。 *2 *3	空白
宛先 3 (To)	宛先 3 の有効 / 無効を選択します。 *1	無効
宛先 3 メールアドレス	宛先 3 のメールアドレスを設定します。 *2 *3	空白
差出人 (From)	差出人のメールアドレスを設定します。 *3	空白
返信先 (Reply-To)	返信先のメールアドレスを設定します。 *3	空白
件名 (Subject)	件名を設定します。 *4	空白
SMTP サーバ設定	SMTP サーバの設定です。	
SMTP サーバ	SMTP サーバを設定します。 *5	0.0.0.0
SMTP ポート	SMTP ポート番号を設定します。	25
SMTP 認証	SMTP 認証の有効 / 無効を選択します。	無効
CRAM-MD5	認証方式(CRAM-MD5)の有効 / 無効を選択します。 *6 *7	有効
LOGIN	認証方式(LOGIN)の有効 / 無効を選択します。 *6 *7	有効
PLAIN	認証方式(PLAIN)の有効 / 無効を選択します。 *6 *7	有効
ユーザ名	SMTP ユーザ名を設定します。 *6 *8	空白
パスワード	SMTP パスワードを設定します。 *6 *9	空白
通報レベル設定	通報レベルの設定です。	
通報レベル	通報されるイベントの種類を設定します。 *10	異常 / 警告
通報テスト	メールでの通報テストを実行します。	

*1: メール通報が "有効" の場合は、1 つ以上の宛先を有効にする必要があります。

*2: 宛先が "有効" の場合にのみ設定できます。

*3: 255 文字までの半角英数字、「-」_「.」及び「@」のみ設定することができます。

*4: 63 文字までの半角英数字で、「+」_「?」_「=」_「<」_「>」_「#」及び「¥」を除く文字列を設定することができます。

*5: 255 文字までの半角英数字、「-」_「.」のフルドメイン名、または IP アドレスを設定することができます。

*6: SMTP 認証が "有効" の場合にのみ設定できます。

*7: SMTP 認証が "有効" の場合は、1 つ以上の認証方式を有効にする必要があります。

*8: 64 文字までの半角英数字で、「」(空白)、「"」_「?」_「=」_「<」_「>」_「#」及び「¥」を除く文字列を設定することができます。

*9: 19 文字までの半角英数字で、「」(空白)、「"」_「?」_「=」_「<」_「>」_「#」及び「¥」を除く文字列を設定することができます。

*10: 通報レベルは以下の通りです。

通報レベル	意味
異常	各センサタイプで "異常" を検出した場合、宛先 1~3 のうちチェックを入れた宛先に通報する設定になります。
異常/警告	各センサタイプで "異常" または "警告" を検出した場合、宛先 1~3 のうちチェックを入れた宛先に通報する設定になります。
異常/警告/情報	各センサタイプで "異常"、"警告" または "情報" を検出した場合、宛先 1~3 のうちチェックを入れた宛先に通報する設定になります。
個別設定	各センサタイプに、通報するイベント、宛先を任意に設定することができます。

4.2.9 SNMP通報

BMC からの SNMP による通報の表示と設定を行います。

BMC コンフィグレーション

システム操作 | ECO | 制御 | その他

ネットワーク | サービス | ユーザーアカウント | Active Directory | LDAP | メール通報 | **SNMP通報**

SNMP通報設定

通報 ☐ 有効 ☒ 無効 通報テスト

コンピュータ名

コミュニティ名

通報手順 ☒ 1つの通報先 ☐ 全ての通報先

通報応答確認 ☒ 有効 ☐ 無効

通報トライ回数 回 (0 - 7)

通報タイムアウト 秒 (3 - 30)

通報先

☒ 1次通報先IPアドレス [必須]

☒ 2次通報先IPアドレス [必須]

☒ 3次通報先IPアドレス [必須]

通報レベル設定

デフォルト設定 適用 キャンセル

BMC コンフィグレーション

システム操作 | ECO | 制御 | その他

ネットワーク | サービス | ユーザーアカウント | Active Directory | LDAP | メール通報 | **SNMP通報**

通報先

☒ 1次通報先IPアドレス [必須]

☐ 2次通報先IPアドレス [必須]

☐ 3次通報先IPアドレス [必須]

通報レベル設定

通報レベル

	異常	警告	情報
温度(閾値監視)	☒	☒	☐
電圧(閾値監視)	☒	☒	☐
ファン(回転数)	☒	☒	☐
冷却装置(閾値監視)	☒	☒	☐
温度(異常監視)	☒	☐	☐
メモリ縮退	☒	☒	☐
モジュール/ボード(未実装)	☒	☐	☐
SMI Timeout	☒	☐	☐
電圧(異常監視)	☒	☐	☐
冷却装置(異常監視)	☒	☒	☐
低消費電力モード遷移	☐	☐	☐

デフォルト設定 適用 キャンセル

項目名	意味	デフォルト値
SNMP 通報設定	SNMP 通報の設定です。	
通報 *1	通報の有効 / 無効を選択します。	無効
コンピュータ名	コンピュータ名を設定します。 *2	空白
コミュニティ名	コミュニティ名を設定します。 *2	public
通報手順	通報手順を 1 つの連絡先 / 全ての通報先から選択します。	1 つの通報先
通報応答確認	通報応答確認の有効 / 無効を選択します。	有効
通報リトライ回数	通報リトライ回数を設定します。 *3	3
通報タイムアウト	通報タイムアウトを設定します。 *3	6
通報先	通報先の設定です。	
1 次通報先	1 次通報先の有効 / 無効を選択します。 *4	有効
IP アドレス	1 次通報先 IP アドレスを設定します。 *5	0.0.0.0
2 次通報先	2 次通報先の有効 / 無効を選択します。 *4	無効
IP アドレス	2 次通報先 IP アドレスを設定します。 *5	0.0.0.0
3 次通報先	3 次通報先の有効 / 無効を選択します。 *4	無効
IP アドレス	3 次通報先 IP アドレスを設定します。 *5	0.0.0.0
通報レベル設定	通報レベルの設定です。	
通報レベル	通報されるイベントの種類を設定します。 *6	異常 / 警告
通報テスト	SNMP での通報テストを実行します。	

*1: PEF(Platform Event Filter)設定 が "無効" の場合は、通報できません。

*2: 16 文字までの半角英数字のみ設定することができます。

*3: 通報応答確認が "有効" の場合にのみ設定できます。

*4: SNMP 通報が "有効" の場合は、1 つ以上の通報先を有効にする必要があります。

*5: 通報先が "有効" の場合にのみ設定できます。

*6: 通報レベルは以下の通りです。

通報レベル	意味
異常	各センサタイプで "異常" を検出した場合、チェックを入れた通報先に、通報する設定になります。
異常/警告	各センサタイプで "異常" または "警告" を検出した場合、チェックを入れた通報先に、通報する設定になります。
異常/警告/情報	各センサタイプで "異常"、"警告" または "情報" を検出した場合、チェックを入れた通報先に、通報する設定になります。
個別設定	各センサタイプに、通報するイベントを任意に設定することができます。

4.2.10 システム操作

リモート KVM コンソール及びリモートメディアに関する設定を行います。

BMC コンフィグレーション

ネットワーク | サービス | ユーザーアカウント | Active Directory | LDAP | メール通報 | SNMP通報

システム操作 | ECO | 制御 | その他

リモートKVMコンソール設定

暗号化 ☒ 有効 ☐ 無効

ポート番号(暗号化無効時) 【必須】 7578 (1024 - 65535)

ポート番号(暗号化有効時) 【必須】 7582 (1024 - 65535)

マウスカーソルモード ☐ Single ☒ Dual

マウス座標モード ☐ Relative ☒ Absolute

*装置のOSがWindowsの場合はAbsolute、Linuxの場合はRelativeを推奨します。

キーボード言語 Japanese(JP)

リモートメディア設定

暗号化 ☒ 有効 ☐ 無効

ポート番号(暗号化無効時)

リモートCD/DVD 【必須】 5120 (1024 - 65532)

リモートUSBメモリ 5122

リモートFD 5123

デフォルト設定 適用 キャンセル

BMC コンフィグレーション

ネットワーク | サービス | ユーザーアカウント | Active Directory | LDAP | メール通報 | SNMP通報

システム操作 | ECO | 制御 | その他

推奨します。

キーボード言語 Japanese(JP)

リモートメディア設定

暗号化 ☒ 有効 ☐ 無効

ポート番号(暗号化無効時)

リモートCD/DVD 【必須】 5120 (1024 - 65532)

リモートUSBメモリ 5122

リモートFD 5123

ポート番号(暗号化有効時)

リモートCD/DVD 【必須】 5124 (1024 - 65532)

リモートUSBメモリ 5126

リモートFD 5127

デフォルト設定 適用 キャンセル

項目名	意味	デフォルト値
リモート KVM コンソール設定	リモート KVM コンソールの設定です。	
暗号化	暗号化の有効 / 無効を選択します。	有効
ポート番号(暗号化無効時)	暗号化無効時のポート番号を設定します。 *1	7578
ポート番号(暗号化有効時)	暗号化有効時のポート番号を設定します。 *1	7582
マウスカーソルモード	マウスカーソルの表示モードを選択します。 Single Dual	Dual
マウス座標モード	マウスカーソルの座標移動の表現方法を選択します。 *2 Relative Absolute	Windows : Absolute Linux, Offline : Relative
キーボード言語	キーボード言語を選択します。 Japanese(JP) English(US) French(FR) German(DE)	Windows, Linux : Japanese(JP) *3 Offline : English(US)
リモートメディア設定	リモートメディアの設定です。	
暗号化	暗号化の有効 / 無効を選択します。	有効
リモート CD/DVD ポート番号 (暗号化無効時)	暗号化無効時のリモート CD/DVD ポート番号を設定します。 *1	5120
リモート USB メモリポート 番号(暗号化無効時)	暗号化無効時のリモート USB メモリポート番号を表示します。(リモート CD/DVD ポート番号 + 2)	
リモート FD ポート番号(暗号化無効時)	暗号化無効時のリモート FD ポート番号を表示します。(リモート CD/DVD ポート番号 + 3)	
リモート CD/DVD ポート番号 (暗号化有効時)	暗号化有効時のリモート CD/DVD ポート番号を設定します。 *1	5124
リモート USB メモリポート 番号(暗号化有効時)	暗号化有効時のリモート USB メモリポート番号を表示します。(リモート CD/DVD ポート番号 + 2)	
リモート FD ポート番号(暗号化有効時)	暗号化有効時のリモート FD ポート番号を表示します。(リモート CD/DVD ポート番号 + 3)	

*1: 各ポート番号は重複させることができません。

*2: OS が Windows の場合は Absolute モード、Linux の場合は Relative モードが推奨です。

*3: OS の言語が日本語以外の場合は English(US)になります。

4.2.11 ECO

消費電力やシステム負荷に関する表示と設定を行います。

■ EXPRESSSCOPE エンジン 3 の場合

項目名	意味	デフォルト値
Aggressive Mode (Critical Power Cap)	本体装置の消費電力を指定した上限閾値以下に抑止したい場合に利用します。CPU クロックの変更とスロットリング、およびメモリクロックのスロットリング(装置によりサポートの有無があります)を行い、システムのパフォーマンスを低下させる代わりに消費電力を削減します。消費電力が設定した電力閾値(Power Threshold(Pa))を上回り、Correction time limit で設定した時間以内に回復しない場合に、システムイベントログの取得、通報の送信、システムのシャットダウンを行うことが可能です。なお、通報の設定は通報設定画面から行ってください。	
Aggressive Mode (Critical Power Cap)	Aggressive Mode の有効 / 無効を選択します。	無効
Power Threshold(Pa) (Power Cap Value(Pc))	Aggressive Mode の電力閾値を設定します。設定可能な値は、(AAA ~ 最大消費電力)[W]です。 *1 *2 *9	最大消費電力 [*9]
Correction time limit	消費電力が電力閾値を上回り、本時間以内に回復しない場合に、システムイベントログの取得、通報の送信、システムのシャットダウンを行います。設定可能な値は、(NNN ~ MMM)[秒]です。 *1 *3 *9	2 と最小値を比較して大きい方 [*9]
Shutdown System (Exception Action)	消費電力が電力閾値を上回り、Correction time limit で指定した時間以内に回復しない場合にシャットダウンする機能の有効 / 無効を選択します。 *1	無効

Non- Aggressive Mode (Non-Critical Power Cap)	システムのパフォーマンス低下を最小限としながら、消費電力の削減を行いたい場合に利用します。CPU クロックの変更のみで消費電力の抑止を行うため、Aggressive Mode と比較すると削減できる消費電力は少なくなりますが、比較的わずかなパフォーマンスの低下でシステム運用が可能です。消費電力が設定した電力閾値 (Power Threshold(Pn))を上回り、Correction time limit で設定した時間以内に回復しない場合に、システムイベントログの取得や通報の送信が可能です。なお、通報の設定は通報設定画面から行ってください。	
Non- Aggressive Mode (Non-Critical Power Cap)	Non- Aggressive Mode の有効 / 無効を選択します。	無効
Power Threshold(Pn) (Power Cap Value(Pn))	Non- Aggressive Mode の電力閾値を設定します。設定可能な値は、(最小消費電力 ~ BBB)[W]です。 *4 *5 *9	Power Threshold (Pa) - 10 と最小消費電力 + 10 を比較して大きい方 [*9]
Correction time limit	消費電力が Non- Aggressive Mode の電力閾値を上回り、本時間以内に回復しない場合に、システムイベントログの取得や通報の送信を行います。設定可能な値は、(NNN ~ MMM)[秒]です。 *4 *6 *9	10 と最小値を比較して大きい方 [*9]
Safe Power Capping	本体装置の消費電力が測定不能な状態に陥った際に、強制的に消費電力を削減することが可能です。本機能は、電源センサ故障時に装置の消費電力が急激に上昇し、本体装置を設置した環境のブレーカーが切断する恐れのあるシステムでの利用を想定しています。	
Safe Power Capping (Power Reading Timeout)	Safe Power Capping の有効 / 無効を選択します。	無効
Boot Time Configuration *7	システムブート時のパフォーマンスを設定します。また、ソケット当りの CPU のコア数の変更も可能です。	
Boot Time Configuration	Boot Time Configuration の有効 / 無効を選択します。	無効
Performance Mode	システムブート時のパフォーマンスを選択します。 *8 性能・動作優先 消費電力量の最適化	性能・動作優先
Disable CPU Cores	無効にする CPU のコア数を設定します。設定可能な値は、0 ~ (最大コア数-1)です。 *8 *9	0
ECO 情報表示	管理対象サーバにおける ECO 関連の参考値、統計値を表示します。	

*1: Aggressive Mode が "有効" の場合にのみ設定できます。

*2: AAA は、"最小消費電力" または "Power Threshold(Pn)" です。

*3: Power Threshold(Pa)と Power Threshold(Pn)が異なる場合、NNN は装置の最小値です。

Power Threshold(Pa)と Power Threshold(Pn)が同じ場合、NNN は Non- Aggressive Mode の"Correction time limit"です。

MMM は、装置の最大値です。

*4: Non- Aggressive Mode が "有効" の場合にのみ設定できます。

*5: BBB は、"最大消費電力" または "Power Threshold(Pa)"です。

*6: NNN は、装置の最小値です。

MMM は、装置の最大値です。

*7: 装置によってはサポートしていない場合があります。サポートしていない場合は、表示されません。

*8: Boot Time Configuration が "有効" の場合にのみ設定できます。

*9: 範囲及び値は装置によって異なる場合があります。

チェック：

- 管理対象サーバが本機能をサポートしていない場合は、ECO 設定画面は表示されません。

■ EXPRESSSCOPE エンジン SP3 の場合

項目名	意味	デフォルト値
Proactive Mode *1	本体装置の消費電力を指定した上限閾値以下に抑止したい場合に利用します。	
Proactive Mode	Proactive Mode の有効 / 無効を選択します。	無効
Power Threshold(Pa)	Proactive Mode の電力閾値を設定します。設定可能な値は、(AAA ~ 最大消費電力)[W]です。 *2 *3 *7	最大消費電力 [*7]
Alert Mode *4	消費電力が設定した電力閾値(Power Threshold(Pn))を上回り、Correction time limit で設定した時間以内に回復しない場合に、システムイベントログの取得や通報の送信が可能です。	
Alert Mode *4	Alert Mode の有効 / 無効を選択します。	無効
Power Threshold(Pn)	Alert Mode の電力閾値を設定します。設定可能な値は、(最小消費電力 ~ BBB)[W]です。 *5 *6 *7	BBB - 10 と最小消費電力 + 10 を比較して大きい方 [*7]
Correction time limit	消費電力が Alert Mode の電力閾値を上回り、本時間以内に回復しない場合に、システムイベントログの取得や通報の送信を行います。設定可能な値は、(1 ~ 600)[秒]です。 *5	10
ECO 情報表示	管理対象サーバにおける ECO 関連の参考値、統計値を表示します。	

- *1: 本モードは、OS 運用中のみ有効となります。
- *2: Proactive Mode が "有効" の場合にのみ設定できます。
- *3: AAA は、"最小消費電力" または "Power Threshold(Pn)" です。
- *4: 装置によってはサポートしていない場合があります。サポートしていない場合は、表示されません。
- *5: Alert Mode が "有効" の場合にのみ設定できます。
- *6: BBB は、"最大消費電力" または "Power Threshold(Pa)"です。
- *7: 範囲及び値は装置によって異なる場合があります。

4.2.12 ECO情報

管理対象サーバの構成および稼動状況による、参考値、統計値を表示します。
表示形式は、装置によって異なります。

■ EXPRESSSCOPE エンジン 3 の場合

ECO情報

参考値

最大構成 (*1)		最小構成 (*2)	
動作電力	250 [W]	動作電力	100 [W]
待機電力	60 [W]	待機電力	30 [W]

(*1)購入時に構成可能な最大構成を示します。
(*2)購入時に構成可能な最小構成を示します。
本情報値は参考値です。誤差や装置の構成などにより値が異なりますので、ご了承ください。

統計値

消費電力		CPU スロットリング		メモリスロットリング	
現在値	52 [W]	現在値	0 [%]	現在値	0 [%]
最大値	70 [W]	最大値	100 [%]	最大値	0 [%]
最小値	51 [W]	最小値	0 [%]	最小値	0 [%]
平均値	56 [W]	平均値	4 [%]	平均値	0 [%]
リセット		リセット		リセット	

OK

ECO情報

参考値

最大消費電力	250 [W]
最小消費電力	30 [W]

注意事項:
本情報値は参考値です。誤差などにより値が異なりますのでご了承ください。

統計値

消費電力		CPU スロットリング		メモリスロットリング	
現在値	52 [W]	現在値	0 [%]	現在値	0 [%]
最大値	70 [W]	最大値	100 [%]	最大値	0 [%]
最小値	51 [W]	最小値	0 [%]	最小値	0 [%]
平均値	56 [W]	平均値	4 [%]	平均値	0 [%]
リセット		リセット		リセット	

OK

項目名	意味
最大構成 *1	購入時に構成可能な最大構成を表示します。
動作電力	システム高負荷時の電力を表示します。
待機電力	電源オンのみの待機時電力を表示します。
最小構成 *1	購入時に構成可能な最小構成を表示します。
動作電力	システム高負荷時の電力を表示します。
待機電力	電源オンのみの待機時電力を表示します。
最大消費電力 *1	システムの最大消費電力を表示します。
最小消費電力 *1	システムの最小消費電力を表示します。
消費電力	管理対象サーバの消費電力を表示します。
現在値	現在の消費電力です。
最大値	単位時間あたりの最大消費電力です。
最小値	単位時間あたりの最小消費電力です。
平均値	単位時間あたりの消費電力平均値です。
CPU スロットリング *2	管理対象サーバの CPU スロットリング率を表示します。
現在値	現在の CPU スロットリング率です。
最大値	単位時間あたりの最大 CPU スロットリング率です。
最小値	単位時間あたりの最小 CPU スロットリング率です。
平均値	単位時間あたりの CPU スロットリング率平均値です。
メモリスロットリング *2 *3	管理対象サーバのメモリスロットリングを表示します。
現在値	現在のメモリスロットリング率です。
最大値	単位時間あたりの最大メモリスロットリング率です。
最小値	単位時間あたりの最小メモリスロットリング率です。
平均値	単位時間あたりの負荷メモリスロットリング率平均値です。
リセット	各統計値をリセットします。

*1: 表示している数値は参考値であり、装置の構成などにより異なる場合があります。

*2: クロックの周波数またはデューティサイクルを低下させ、消費電力を抑える技術です。

*3: 装置によってはサポートしていない場合があります。サポートしていない場合は、表示されません。

■ EXPRESSSCOPE エンジン SP3 の場合

ECO情報

参考値

最大消費電力

2200 [W]

最小消費電力

1700 [W]

注意事項:
本情報は参考値です。誤差などにより
値が異なりますのでご了承ください。

統計値

消費電力

現在値

321 [W]

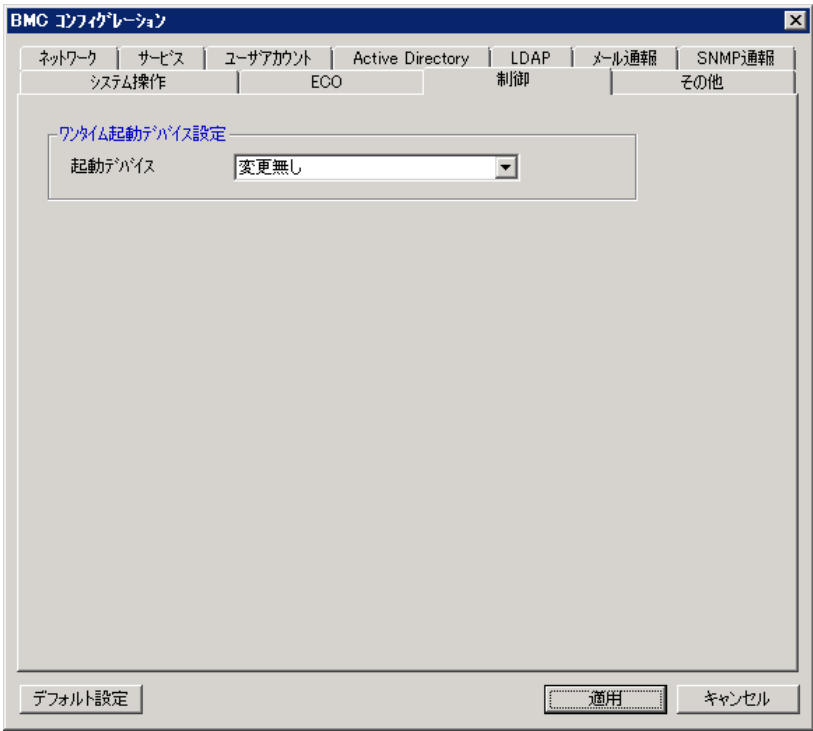
OK

項目名	意味
最大消費電力 *1	システムの最大消費電力を表示します。
最小消費電力 *1	システムの最小消費電力を表示します。
消費電力	管理対象サーバの消費電力を表示します。
：現在値	現在の消費電力です。

*1: 表示している数値は参考値であり、装置の構成などにより異なる場合があります。

4.2.13 制御

管理対象サーバの制御を行います。設定値は、次に管理対象サーバが起動するときに適用されます。EXPRESSSCOPE エンジン SP3 の場合、この設定はありません。



項目名	意味	デフォルト値
ワнтаイム起動デバイス設定	ワнтаイム起動デバイスの設定です。	
起動デバイス *1	次回起動するデバイスを選択します。	変更無し

*1: 起動デバイスは以下の通りです。

起動デバイス	意味
変更無し	管理対象サーバのシステム BIOS の設定に従います。
PXE	PXE Boot を行います。
HDD	管理対象サーバに接続されたハードディスクドライブから起動します。
CD/DVD	管理対象サーバに接続された CD/DVD ドライブから起動します。
リモート FD	リモートメディア機能で接続されたフロッピーディスクドライブ(メディア)から起動します。
リモート CD/DVD	リモートメディア機能で接続された CD/DVD ドライブ(メディア)から起動します。
リモート USB メモリ	リモートメディア機能で接続された USB メモリから起動します。
FD	管理対象サーバに接続されたフロッピーディスクドライブ、またはリムーバブルメディアから起動します。

.....
チェック：

- Off-line TOOL には、この設定はありません。
-

4.2.14 その他

BMC の様々な機能の設定を行います。

The screenshot shows the 'BMC Configuration' window with the following tabs: ネットワーク, サービス, ユーザーアカウント, Active Directory, LDAP, メール通報, SNMP通報, システム操作, ECO, 制御, その他. The '制御' tab is selected, showing the following sections:

- SEL設定**: SEL領域Full時の動作. Options: ☒ SELの記録停止, ☐ SELの全クリア, ☐ 古いSELを上書き.
- 電源オプション設定**: AC-LINK. Options: ☐ Stay Off, ☒ Last State, ☐ Power On. Delay time: 遅延時間 [必須] ☐ ランダム 45 秒 (45 - 600).
- PEF設定**: Platform Event Filter. Options: ☒ 有効, ☐ 無効. Note: *PEF(Platform Event Filter)が無効の場合は、SNMP通報を行えません。
- 管理ソフトウェア設定**: ESMPROから管理. Options: ☐ 有効, ☒ 無効. Authentication key: 認証キー [必須] (empty field). Redirection: リダイレクション. Options: ☒ 有効, ☐ 無効.

Buttons at the bottom: デフォルト設定, 適用, キャンセル.

項目名	意味	デフォルト値
SEL 設定	SEL の設定です。	
SEL 領域 Full 時の動作	SEL 領域が一杯になった場合の動作を選択します。 *1 SEL の記録停止 ：それ以上の SEL を記録しない。 SEL の全クリア ：SEL を全て削除し、改めて SEL 記録を行う。 古い SEL を上書き ：古い SEL を新しい SEL で上書きする。	SEL の記録停止
電源オプション設定	電源オプションの設定です。	
AC-Link	AC-Link の設定を選択します。 *2 Stay Off ：DC 電源オンを行わない。 Last State ：AC 電源オフした時と同じ電源状態になる。 Power On ：常に DC 電源オンを行う。	Last State *2
遅延時間	遅延時間を指定、もしくは、ランダムを指定します。設定可能な値は、(最小値 ~ 600)です。 *3	最小値
PEF 設定	PEF の設定です。	
Platform Event Filter	Platform Event Filter の有効 / 無効を選択します。 *4	有効
管理ソフトウェア設定	管理ソフトウェアの設定です。	
ESMPRO から管理	ESMPRO から管理の有効 / 無効を選択します。 *5	現在の設定値
認証キー	認証キーを指定します。 *6 *7	guest
リダイレクション	リダイレクションの有効 / 無効を選択します。 *6 リダイレクションを有効に設定すると、BIOS 設定のコ	有効

	ンソールリダイレクションポートがシリアルポート B に設定されます。	
--	------------------------------------	--

*1: "古い SEL を上書き" から、または "古い SEL を上書き" へ変更した場合、SEL はクリアされます。

*2: BIOS 設定の "Standby Power Save" が有効の場合、"Power On"に設定されます。この場合、デフォルト設定値も"Power On"となります。

*3: AC-Link が "Stay Off" の場合、もしくは装置がブレードサーバの場合は設定できません。AC 電源オンから DC 電源オンするまでの遅延時間を指定します。最大 600(秒)まで設定できます。最小値は装置によって異なります。ランダムは、装置がサポートしている場合にのみ設定できます。

*4: "無効" にした場合、SNMP 通報はできなくなります。

*5: ESMPRO/ServerManager(Ver.5.4 以降)から、BMC を直接管理できるようにする場合、"有効"に設定します。有効に設定する場合は、必ず認証キーも設定してください。

*6: "ESMPRO から管理" が有効の場合にのみ設定できます。

*7: ESMPRO/ServerManager(Ver.5.4 以降)から、管理対象サーバを管理する場合の認証キーです。16 文字までの半角英数字のみ設定することができます。

チェック：

- Off-line TOOL には、電源オプション設定はありません。

4.2.15 拡張設定

拡張機能の設定を行います。

この設定項目は、EXPRESSSCOPE エンジン SP3 の場合のみ存在します。

各項目の詳細については、本体装置のユーザーズガイドを参照してください。

BMC コンフィグレーション

ネットワーク(マスク) | ネットワーク(スタンバイ) | サービス(マスク) | ユーザーアカウント | Active Directory
 LDAP | SNMP通報 | システム操作 | ECO | その他 | **拡張設定**

Cooling

	現在動作値	再起動後反映値
BBU(*) on PCI Slot	Not-Installed	☒ Not-Installed ☐ Installed

*BBU: Battery Backup Unit for SAS Card.

Fault Handling

	現在動作値	再起動後反映値
Degraded Server Boot Policy	Boot	☒ Boot ☐ Not-Boot
Failing Unit Removal	有効	☒ 有効 ☐ 無効
FRB2 Monitoring	有効	☒ 有効 ☐ 無効

Diagnostics

	現在動作値	再起動後反映値
Periodic Diagnosis	有効	☒ 有効 ☐ 無効

Configuration

	現在動作値	再起動後反映値
Master Clock Module	Clock1	☒ Clock1 ☐ Clock2

デフォルト設定 適用 キャンセル

BMC コンフィグレーション

ネットワーク(マスク) | ネットワーク(スタンバイ) | サービス(マスク) | ユーザーアカウント | Active Directory
 LDAP | SNMP通報 | システム操作 | ECO | その他 | **拡張設定**

*BBU: Battery Backup Unit for SAS Card.

Fault Handling

	現在動作値	再起動後反映値
Degraded Server Boot Policy	Boot	☒ Boot ☐ Not-Boot
Failing Unit Removal	有効	☒ 有効 ☐ 無効
FRB2 Monitoring	有効	☒ 有効 ☐ 無効

Diagnostics

	現在動作値	再起動後反映値
Periodic Diagnosis	有効	☒ 有効 ☐ 無効

Configuration

	現在動作値	再起動後反映値
Master Clock Module	Clock1	☒ Clock1 ☐ Clock2
Spare Memory Configuration Mode	Static	☒ Static ☐ Dynamic
Spare PCIe Configuration Mode	Static	☒ Static ☐ Dynamic

デフォルト設定 適用 キャンセル

項目名	意味	デフォルト値
Cooling	冷却機能の設定です。	
BBU(*1) on PCI Slot	BBU(*1)の冷却設定について選択します。 Not -Installed Installed	Not -Installed
Fault Handling	エラー発生時の動作の設定です。	
Degraded Server Boot Policy	デグレード時のブートポリシーを選択します。 Boot Not-Boot	Not-Boot
Failing Unit Removal	障害ユニット切り離しの有効/無効を選択します。 有効 無効	有効
FRB2 Monitoring	FRB2 監視の有効/無効を選択します。 有効 無効	有効
Diagnostics	診断機能の設定です。	
Periodic Diagnosis	定期診断の有効/無効を選択します。 有効 無効	有効
Configuration	その他各種機能の設定です。	
Master Clock Module	マスタクロックモジュールを選択します。 Clock1 Clock2	Clock1
Spare Memory Configuration Mode	スペアメモリのモードを選択します。 Static Dynamic	Static
Spare PCIe Configuration Mode	スペア PCIe のモードを選択します。 Static Dynamic	Static

*1: Battery Backup Unit for SAS Card

チェック：

- 設定値は、次に管理対象サーバが起動する時に適用されます。

4.3 BIOS設定

システム BIOS の設定表示を行います。各項目の詳細については、本体装置のユーザーズガイドを参照してください。設定値は、次に管理対象サーバが起動するときに適用されます。



BIOS設定

BIOS

基本設定

	現在動作値	再起動後反映値
POST Error Pause	有効	☒ 有効 ☐ 無効
Memory Error	Boot	☐ Halt ☒ Boot
CLI Setup	無効	☐ 有効 ☒ 無効
Standby Power Save	無効	☐ 有効 ☒ 無効

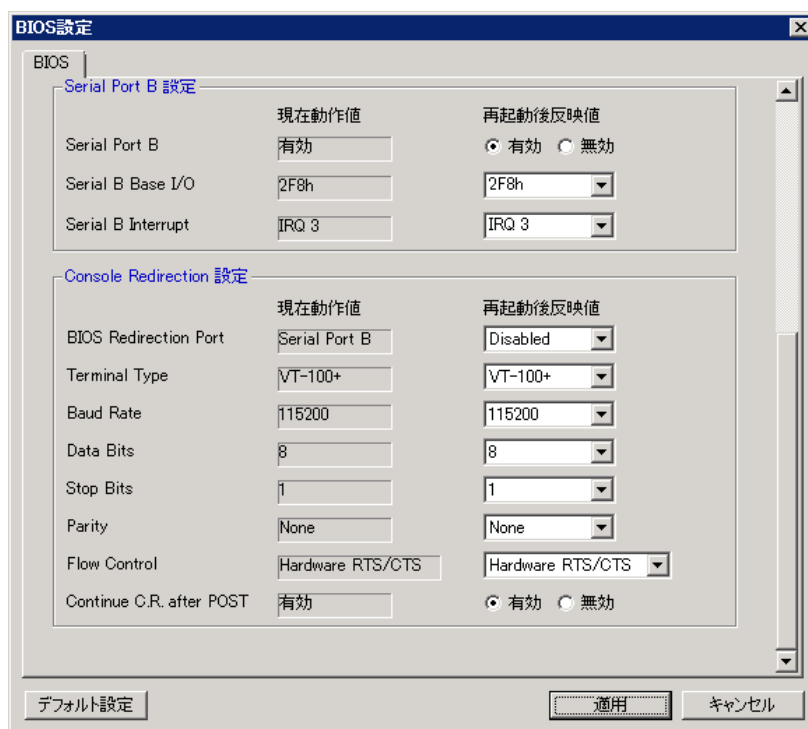
Serial Port A 設定

	現在動作値	再起動後反映値
Serial Port A	有効	☒ 有効 ☐ 無効
Serial A Base I/O	3F8h	3F8h
Serial A Interrupt	IRQ 4	IRQ 4

Serial Port B 設定

	現在動作値	再起動後反映値
Serial Port B	有効	☒ 有効 ☐ 無効
Serial B Base I/O	2F8h	2F8h
Serial B Interrupt	IRQ 3	IRQ 3

デフォルト設定 適用 キャンセル



BIOS設定

BIOS

Serial Port B 設定

	現在動作値	再起動後反映値
Serial Port B	有効	☒ 有効 ☐ 無効
Serial B Base I/O	2F8h	2F8h
Serial B Interrupt	IRQ 3	IRQ 3

Console Redirection 設定

	現在動作値	再起動後反映値
BIOS Redirection Port	Serial Port B	Disabled
Terminal Type	VT-100+	VT-100+
Baud Rate	115200	115200
Data Bits	8	8
Stop Bits	1	1
Parity	None	None
Flow Control	Hardware RTS/CTS	Hardware RTS/CTS
Continue C.R. after POST	有効	☒ 有効 ☐ 無効

デフォルト設定 適用 キャンセル

項目名	意味	デフォルト設定値 *1
基本設定	システム BIOS の基本設定です。	
POST Error Pause	POST エラー停止の有効 / 無効を選択します。	有効
Memory Error *2	メモリエラー時の動作(Boot/Halt)を選択します。	Boot
CLI Setup *2	CLI Setup の有効 / 無効を選択します。	無効
Standby Power Save *2	Standby Power Save の有効 / 無効を選択します。	無効
Serial Port A 設定	シリアルポート A の設定です。	
Serial Port A	シリアルポート A の有効 / 無効を選択します。	有効
Serial A Base I/O	シリアルポート A の Base I/O アドレスを選択します。シリアルポート B と異なる値を選択してください。	3F8h
Serial A Interrupt	シリアルポート A の IRQ を選択します。シリアルポート B と異なる値を選択してください。	IRQ 4
Serial Port B 設定	シリアルポート B の設定です。	
Serial Port B	シリアルポート B の有効 / 無効を選択します。	有効
Serial B Base I/O	シリアルポート B の Base I/O アドレスを選択します。シリアルポート A と異なる値を選択してください。	2F8h
Serial B Interrupt	シリアルポート B の IRQ を選択します。シリアルポート A と異なる値を選択してください。	IRQ 3
Console Redirection 設定	コンソールリダイレクションの設定です。	
BIOS Redirection Port	BIOS リダイレクションポートを選択します。無効なシリアルポートは選択できません。	Disabled
Terminal Type	端末タイプを選択します。	VT-100+
Baud Rate	ボーレートを選択します。	115200
Data Bits	データビットを選択します。	8
Stop Bits	ストップビットを選択します。	1
Parity	パリティを選択します。	None
Flow Control	フロー制御を選択します。	Hardware RTS/CTS
Continue C.R. after POST	POST 後のコンソールリダイレクション継続の有効 / 無効を選択します。	有効

*1: 装置によっては値が異なる場合があります。

*2: 装置によってはサポートしていない場合があります。サポートしていない場合は、表示されません。

チェック：

- Off-line TOOL には、この設定はありません。

4.4 バッテリー設定

装置がバッテリーを搭載している場合、バッテリーパック及びバッテリーコントローラの情報を表示、設定することができます。

チェック：

- バッテリー搭載装置ではない場合、この設定はありません。
- Off-line TOOL では、Battery Configuration を選択します。

4.4.1 バッテリーパック情報

バッテリーパックの様々な情報を表示します。

	バッテリーパック1	バッテリーパック2
ステータス	正常	正常
充電状態	満充電	満充電
バッテリー交換要否	不要	不要
残容量	2500 mAh	2500 mAh
学習容量	2500 mAh	2500 mAh
定格容量	2500 mAh	2500 mAh
電圧	9443 mV	9443 mV
電流	0 mA	0 mA
製造元	FDK	FDK
モデル名	TC071NE3	TC071NE3
バッテリー種別	NiMH	NiMH
総稼働時間	888 時間	890 時間
再充電回数	12 回	12 回
満充電回数	78 回	77 回

項目名	意味
バッテリーパック情報	バッテリーパック 1 及び 2 の情報を表示します。
ステータス	検出したバッテリーパック状態を表示します。 正常 / 警告 / 異常 / 未搭載
充電状態	バッテリーパックの充電状態を表示します。 *1 満充電 / 充電中 / 放電中[%] / 不明
バッテリー交換要否	バッテリーパックの交換要否を表示します。 *1 必要 / 不要
残容量	バッテリー残容量[mAh]を表示します。 *1 残容量：学習容量に対する残容量
学習容量	バッテリー学習容量[mAh]を表示します。 *1 学習容量：満充電から放電終止電圧までに放電できた電池容量
定格容量	バッテリー定格容量[mAh]を表示します。 *1 定格容量：JIS C8708 2007 の充放電条件に基づくバッテリーパックの最小容量
電圧	バッテリーパックの電圧測定値[mV]を表示します。 *1

電流	バッテリーパックの電流測定値[mA]を表示します。 *1
製造元	バッテリーパックの製造元を表示します。 *1
モデル名	バッテリーパックのモデル名を表示します。 *1
バッテリー種別	バッテリーパックのバッテリー種別を表示します。 *1
総稼動時間	バッテリーパックの総稼動時間を表示します。 *1
再充電回数	バッテリーパックの再充電回数を表示します。 *1
満充電回数	バッテリーパックの満充電回数を表示します。 *1

*1: バッテリーパックが未搭載の場合、表示は「-」となります。

4.4.2 バッテリコントローラ情報

バッテリコントローラの様々な情報を表示します。

バッテリーコントローラ情報	
製造元	FDK
デバイス名	TC071NE3
Firmware Revision	04.06
サポートバッテリー種別	NiMH
満充電時推定バックアップ時間(現在負荷) 分:秒	25:31
満充電時推定バックアップ時間(最大負荷) 分:秒	2:45
定格容量	5000 mAh
定格電力	300 W
ピーク電力	350 W
充電電力	25 W

項目名	意味
バッテリーコントローラ情報	バッテリーコントローラの情報を表示します。
製造元	バッテリーコントローラの製造元を表示します。
デバイス名	バッテリーコントローラのデバイス名を表示します。
Firmware Revision	バッテリーコントローラのファームウェアリビジョンを表示します。
サポートバッテリー種別	バッテリーコントローラのサポートバッテリー種別を表示します。
満充電時推定バックアップ時間(現在負荷)	システムの現在負荷で、満充電時から何分間電源を供給できるかを示す推定バックアップ時間[分:秒]を表示します。 *1 *2
満充電時推定バックアップ時間(最大負荷)	システムの最大負荷で、満充電時から何分間電源を供給できるかを示す推定バックアップ時間[分:秒]を表示します。 *1 *2
定格容量	バッテリーコントローラの定格容量[mAh]を表示します。 定格容量：JIS C8708 2007 の充放電条件に基づくバッテリーコントローラの最小容量
定格電力	バッテリーコントローラの定格電力[W]を表示します。
ピーク電力	バッテリーコントローラのピーク電力[W]を表示します。
充電電力	充電に必要な電力[W]を表示します。

*1: 推定バックアップ時間が不明な場合、表示は「-」となります。

*2: 「満充電時推定バックアップ時間」は、管理対象サーバの環境温度が 25 時の予想稼働時間の参考値です。環境温度の違いなどにより、実際の稼働時間と異なる場合があります。

4.4.3 バッテリコントローラ設定

バッテリコントローラに関する様々な機能の表示と設定を行います。

バッテリコントローラ設定

バッテリコントローラ

電源異常時のシャットダウン ☒ 有効 ☐ 無効

電源異常時のシャットダウン開始待ち時間 **[必須]** 秒 (0 - 255)

電源異常時のシャットダウン完了待ち時間 **[必須]** 秒 (0 - 3600)

*シャットダウンを行うには、装置の電源ボタンを押した際シャットダウンを行うように設定されている必要があります。

電源復旧後の起動 ☒ 有効 ☐ 無効

*AC-LINK設定がStay Offの場合、又はAC-LINK設定がLast Stateでかつ装置がDC-OFFされている場合のみ本設定は有効です。

DC-ON後の起動完了待ち時間 **[必須]** 秒 (0 - 3600)

デフォルト設定 適用 キャンセル

項目名	意味	デフォルト設定値
バッテリコントローラ設定	バッテリコントローラの設定です。	
電源異常時のシャットダウン	電源異常時にシャットダウンする機能の有効 / 無効を選択します。 *1	無効
電源異常時のシャットダウン開始待ち時間	電源異常時にシャットダウンが開始されるまでの待ち時間を指定します。設定可能な値は、(0 ~ 255)[秒]です。 *2 *3	0
電源異常時のシャットダウン完了待ち時間	電源異常時にシャットダウンが完了するまでの待ち時間を指定します。設定可能な値は、(0 ~ 3600)[秒]です。 *2 *3	0
電源復旧後の起動	電源復旧後に起動する機能の有効 / 無効を選択します。 *2 *4	無効
DC-ON 後の起動完了待ち時間	DC-ON 後に起動が完了するまでの待ち時間を指定します。設定可能な値は、(0 ~ 3600)[秒]です。 *2 *3 *5	0

*1: シャットダウンを行うには、装置の電源ボタンを押した際シャットダウンを行うように設定されている必要があります。

*2: 電源異常時のシャットダウンが "有効" の場合にのみ設定できます。

*3: バッテリの残容量によっては、設定した各時間よりも早く出力が停止される場合があります。

*4: AC-LINK 設定が Stay Off の場合、又は AC-LINK 設定が Last State でかつ装置が DC-OFF されている場合のみ本設定は有効です。

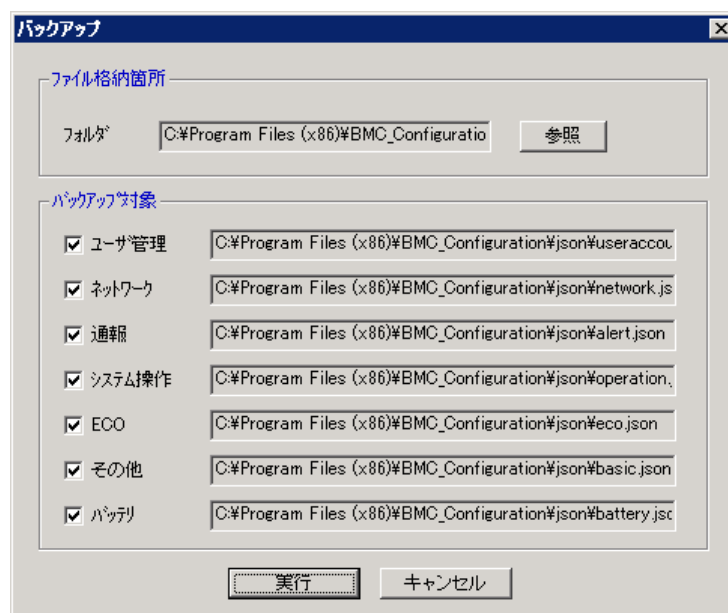
*5: 「電源異常時のシャットダウン」機能で DC-OFF された後の DC-ON でのみ有効です。(「電源復旧後の起動」機能での DC-ON または手動での DC-ON で有効です。)

4.5 バックアップ

設定値をファイルにバックアップします。

バックアップ対象を選択し、実行ボタンをクリックしてください。

EXPRESSSCOPE エンジン SP3 の場合、本機能はありません。



項目名	意味
ファイル格納箇所	ファイル格納箇所を指定します。
フォルダ	ファイルの保存先ディレクトリを表示します。
参照	ファイルの保存先を変更します。
バックアップ対象	バックアップ対象を指定します。
ユーザアカウント	ユーザアカウント設定をバックアップする際に選択します。バックアップ先が表示されます。
ネットワーク	ネットワーク設定をバックアップする際に選択します。バックアップ先が表示されます。
通報	通報設定をバックアップする際に選択します。バックアップ先が表示されます。
操作	操作設定をバックアップする際に選択します。バックアップ先が表示されます。
ECO *1	ECO 設定をバックアップする際に選択します。バックアップ先が表示されます。
その他	その他設定をバックアップする際に選択します。バックアップ先が表示されます。
バッテリー *1	バッテリー設定をバックアップする際に選択します。バックアップ先が表示されます。

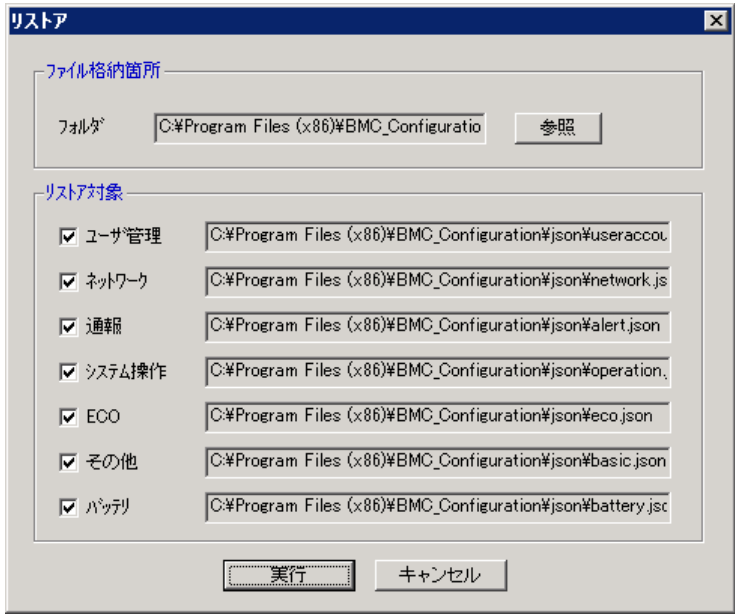
*1: 装置によってはサポートしていない場合があります。サポートしていない場合は、表示されません。

チェック：

- Off-line TOOL には、バックアップ機能はありません。

4.6 リストア

設定値をファイルからリストアします。
リストア対象を選択し、実行ボタンをクリックしてください。
EXPRESSSCOPE エンジン SP3 の場合、本機能はありません。



項目名	意味
ファイル格納箇所	ファイル格納箇所を指定します。
フォルダ	ファイルの保存先ディレクトリを表示します。
参照	ファイルの保存先を変更します。
リストア対象	リストア対象を指定します。
ユーザアカウント	ユーザアカウント設定をリストアする際に選択します。対象バックアップファイルが存在する場合のみ、ファイル名が表示されて選択可能になります。
ネットワーク	ネットワーク設定をリストアする際に選択します。対象バックアップファイルが存在する場合のみ、ファイル名が表示されて選択可能になります。
通報	通報設定をリストアする際に選択します。対象バックアップファイルが存在する場合のみ、ファイル名が表示されて選択可能になります。
操作	操作設定をリストアする際に選択します。対象バックアップファイルが存在する場合のみ、ファイル名が表示されて選択可能になります。
ECO *1	ECO 設定をリストアする際に選択します。対象バックアップファイルが存在する場合のみ、ファイル名が表示されて選択可能になります。
その他	その他設定をリストアする際に選択します。対象バックアップファイルが存在する場合のみ、ファイル名が表示されて選択可能になります。
バッテリー *1	バッテリー設定をリストアする際に選択します。対象バックアップファイルが存在する場合のみ、ファイル名が表示されて選択可能になります。

*1: 装置によってはサポートしていない場合があります。サポートしていない場合は、表示されません。

.....

チェック：

- Off-line TOOL には、リストア機能はありません。
-

4.7 BMCのSEL消去

BMC 設定において BMC の SEL 消去を選択すると、SEL(システムイベントログ)のすべての記録を消去することができます。

チェック：

- Off-line TOOL では、Clear BMC SEL を選択します。
-

4.8 BMC設定の初期化

メインメニューにおいて BMC 設定の初期化を選択すると、一部を除くすべての BMC コンフィグレーションの設定を初期値に戻すことができます。初期化を実行した場合は、BMC が再起動するまで数分かかります。

重要：

- 本操作によってデータが失われる可能性があります。
 - 本操作実行後の数分間にシステムのシャットダウンやリブート等の各種操作を実行すると、装置によっては HW 異常が誤検出される場合があります。詳細は各装置のユーザーズガイドを参照してください。
-

チェック：

- Off-line TOOL では、BMC Configuration Initialization を選択します。
 - ECO 設定の初期化は、以下のバージョンでのサポートとなります。
- BMC Configuration (Windows) Ver.1.21 以降
 - 装置がバッテリーを搭載している場合、メニューが BMC/バッテリー設定の初期化 (BMC/Battery Configuration Initialization)となります。また、バッテリーコントローラ設定も初期化されます。
-

4.9 BMCのリセット

BMC 設定において BMC のリセットを選択すると、装置を再起動せずに BMC をリセットすることができます。リセットを実行した場合は、BMC が再起動するまで数分かかります。

重要：

- 本操作は、BMC の機能が正しく動作しないときなどで使用してください。
 - 本操作によって BMC の設定値は変更されません。
 - 本操作実行後の数分間にシステムのシャットダウンやリブート等の各種操作を実行すると、装置によっては HW 異常が誤検出される場合があります。詳細は各装置のユーザーズガイドを参照してください。
-

チェック：

- Off-line TOOL では、BMC Reset を選択します。
-

5. 機能(ftサーバ)

この章では BMC Configuration を ft サーバで使用する場合の機能について説明します。
標準的なサーバについては、4 章を参照してください。

5.1 起動方法

5.1.1 Windows

以下の方法で BMC Configuration のメインダイアログボックスを起動できます。

管理者(Administrator)権限で実行してください。

- ・ Windows のスタートメニューから、「BMC_Configuration」 - 「BMC Configuration」をクリックする。

以下は画面例です。



ヒント:

- ・ BMC Configuration のヘルプは、以下から参照することができます。

Windows のスタートメニューから、「BMC_Configuration」 - 「BMC Configuration Help」をクリックする。

5.1.2 Off-line TOOL

Off-line TOOL は、以下で起動します。

- (1) POST 画面表示中に次のメッセージが画面下に表示されます。

Press<F2> SETUP, <F4> ROM Utility, <F12> Network
--

- (2) ここで<F4>キーを押します。<F4>キーを押すと、POST 画面終了後にキーボード選択画面が表示され、キーボード選択後に Off-line TOOL のメニューが表示されます。

- (3) BMC Configuration を選択します。

.....
ヒント :

- Off-line TOOL は、装置に標準で搭載されています。
- ツールのヘルプは、以下から参照することができます。

.....
ツールを起動後、Help メニューを選択、または、画面下部に[Help:[Home or ?]]と表示されている画面で、「Home」キー、「？」キーのどちらかを押す。
.....

5.2 BMCコンフィグレーション設定

以下に、BMC のコンフィグレーション項目を示します。
Windows 版の BMC Configuration の画面に従って説明します。

ネットワーク及びサービスは、CPU/IO モジュール 0 と 1 で別の設定となります。
それ以外は、CPU/IO モジュール 0 と 1 で共通の設定となります。

5.2.1 ネットワーク

BMC で使用するネットワーク環境の表示と設定を行います。

The screenshot shows the 'BMC コンフィグレーション' (BMC Configuration) window. The 'ネットワーク' (Network) tab is selected, and the 'サービス0' (Service 0) sub-tab is active. The window contains a warning message: '*本画面の設定を変更すると、BMCとの通信が切断される場合があります。' (Changing settings on this screen may disconnect communication with the BMC). Below this is the '管理用LAN設定' (Management LAN Settings) section. The settings are as follows:

設定項目	設定値
管理用LAN	Management LAN
通信タイプ	Auto Negotiation
BMC MACアドレス	00:25:5C:26:88:9E
DHCP	☒ 有効 ☐ 無効
IPアドレス [必須]	192.168.14.100
サブネットマスク [必須]	255.255.254.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
ダイナミックDNS	☐ 有効 ☒ 無効
DNSサーバ	
ホスト名	
ドメイン名	

At the bottom of the window, there are three buttons: 'デフォルト設定' (Default Settings), '適用' (Apply), and 'キャンセル' (Cancel).

BMC コンフィグレーション

LDAP | メール通報 | SNMP通報 | システム操作 | 制御 | その他

ネットワーク0 | サービス0 | ネットワーク1 | サービス1 | ユーザーアカウント | Active Directory

サブネットマスク [必須] 255.255.255.0

デフォルトゲートウェイ 0.0.0.0

ダイナミックDNS ☐ 有効 ☒ 無効

DNSサーバ

ホスト名

ドメイン名

アクセス制限設定

制限タイプ ☒ 制限なし ☐ 許可アドレス ☐ 拒否アドレス

IPアドレス [必須]

*コンマ(,)を使用して、IPアドレスを区切ってください。
拒否アドレスは、ワイルドカード()での指定が可能です。

デフォルト設定 適用 キャンセル

項目名	意味	デフォルト値
管理用 LAN 設定	管理用 LAN の設定です。	
管理用 LAN 通信タイプ	BMC が使用する LAN ポートを表示します。 *1 管理用 LAN の通信タイプを表示、設定します。 Auto Negotiation : 最適な設定で通信します。 100Mbps Full : 100Mbps の速度で、全二重通信します。 100Mbps Half : 100Mbps の速度で、半二重通信します。 10Mbps Full : 10Mbps の速度で、全二重通信します。 10Mbps Half : 10Mbps の速度で、半二重通信します。	Auto Negotiation
BMC MAC アドレス	管理用 LAN の MAC アドレスを表示します。	
DHCP	管理用 LAN が DHCP サーバから IP アドレスを自動的に取得する機能の有効 / 無効を指定します。有効を指定した場合、登録後に「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」の項目に BMC が DHCP サーバから取得した値が設定されます。	無効
IP アドレス	管理用 LAN の IP アドレスを設定します。 *3	192.168.1.1
サブネットマスク	管理用 LAN のサブネットマスクを設定します。 *2 *3	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	管理用 LAN のデフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定します。 *3 この項目を設定した場合は、ゲートウェイをネットワークに接続した状態でコンフィグレーション情報を登録してください。	0.0.0.0

ダイナミック DNS	ダイナミック DNS の有効 / 無効を選択します。 *4	無効
DNS サーバ	DNS サーバを設定します。	0.0.0.0
ホスト名	ホスト名を設定します。 *5 *6	空白
ドメイン名	ドメイン名を設定します。 *6	空白
アクセス制限設定	アクセス制限の設定です。	
制限タイプ	制限タイプを選択します。 制限無し ： BMC へのアクセスを制限しません。 許可アドレス ： BMC へのアクセスを許可する IP アドレスを設定します。 拒否アドレス ： BMC へのアクセスを拒否する IP アドレスを設定します。	制限なし
IP アドレス	管理用 LAN へのアクセスを許可または拒否する IP アドレスを設定します。 *7 *8	空白

*1: ft サーバでは変更できません。

*2: サブネットマスクとして不正な値を設定した場合は、「BMC 情報の設定に失敗しました」というエラーメッセージが表示されて設定できません。

*3: DHCP が "無効" の場合にのみ設定できます。

*4: DHCP が "有効" の場合にのみ設定できます。

*5: ホスト名は 63 文字まで設定が可能です。64 文字以上入力した場合は切り捨てて設定されます。

*6: ホスト名とドメイン名は、合わせて 255 文字以内で設定してください。

7: "許可" または "拒否" する IP アドレスの範囲を、","(カンマ)" で区切って記載します。"拒否" の場合は、ワイルドカードとして "" を使用できます。(例: "192.168.1.*,192.168.2.1,192.168.2.254")

*8: 制限タイプが "許可" または "拒否" の場合にのみ設定できます。255 文字まで設定可能です。

5.2.2 サービス

BMC が使用するサービスの種類一覧の表示と設定を行います。

項目名	意味	デフォルト値
Web サーバ設定	Web サーバの設定です。	
HTTP	HTTP の有効 / 無効を選択します。 *1	有効
HTTP ポート番号	HTTP ポート番号を設定します。 *2 *3	80
HTTPS	HTTPS の有効 / 無効を選択します。	有効
HTTPS ポート番号	HTTPS ポート番号を設定します。 *2 *3	443
SSH 設定	SSH の設定です。	
SSH	SSH の有効 / 無効を選択します。	有効
SSH ポート番号	SSH ポート番号を設定します。 *2 *3	22

- *1: HTTP を有効にすると、HTTPS も自動で有効となります。HTTP だけを有効にすることはできません。
- *2: 各ポートが有効の場合にのみ設定できます。
- *3: 各ポート番号は重複させることができません。

5.2.3 ユーザアカウント

BMC を利用するユーザ設定の管理を行います。最大 12 ユーザまで登録することができます。

項目名	意味
ユーザアカウント設定	登録されているユーザの一覧を表示します。
No	ユーザに割り当てられている番号を表示します。
ユーザ名	ユーザ名を表示します。
権限	ユーザの権限を表示します。
編集	ユーザ情報を追加または変更します。
削除	ユーザ情報を削除します。 *1

*1: ユーザが存在する場合にのみ削除可能です。

.....

チェック：

- Off-line TOOL では、ユーザの削除は、次のユーザ設定画面で行います。
-

5.2.4 ユーザ

選択したユーザの設定を行います。

項目名	意味	デフォルト値
ユーザ設定	ユーザの設定です。	
ユーザ	ユーザの有効 / 無効を選択します。 *1	有効
ユーザ名	ユーザ名を設定します。 *2	空白
パスワード	パスワードを設定します。 *3	空白
確認パスワード	確認用にパスワードと同じ文字を設定します。 *3	空白
権限	ユーザの権限を選択します。 *4 アドミニストレータ オペレータ ユーザ	アドミニストレータ

- *1: ユーザが存在する場合にのみ設定可能です。
- *2: 15 文字までの半角英数字、「-」及び「_」のみ設定することができます。ただし、「-」はユーザ名の先頭には使用できません。また、「eng」、「root」、「null」、「MWA」、「AccessByEM-Poem」及び既に他の番号に登録されている名前は使用できません。
- *3: 19 文字までの半角英数字で、「 」(空白)、「"」、「&」、「?」、「=」、「#」及び「¥」を除く ASCII 文字列を設定することができます。
- *4: 権限は以下の通りです。

権限	意味
アドミニストレータ	管理者権限を持つユーザです。全ての操作を行えます。
オペレータ	装置の操作を行えるユーザです。セッション管理、ライセンス登録、リモート KVM/メディア、設定全般、アップデートは行えません。
ユーザ	一般的なユーザです。IPMI 情報を表示する以外の操作は行えません。

5.2.5 Active Directory

Active Directory に関する表示と設定を行います。

BMC コンフィグレーション

LDAP | メール通報 | SNMP通報 | システム操作 | 制御 | その他
ネットワーク0 | サービス0 | ネットワーク1 | サービス1 | ユーザーアカウント | **Active Directory**

プロパティ設定

Active Directory 認証 ☒ 有効 ☐ 無効

ユーザドメイン名 **【必須】**

タイムアウト **【必須】** 秒 (15 - 300)

☒ ドメインコントローラサーバアドレス1 **【必須】**

☐ ドメインコントローラサーバアドレス2 **【必須】**

☐ ドメインコントローラサーバアドレス3 **【必須】**

グループ設定

No	グループ名	グループドメイン	権限	操作
1				編集 削除
2				編集 削除
3				編集 削除
4				編集 削除
5				編集 削除

デフォルト設定

項目名	意味	デフォルト値
プロパティ設定	Active Directory の設定です。	
Active Directory 認証	Active Directory 認証の有効 / 無効を選択します。	無効
ユーザドメイン名	ユーザドメイン名を設定します。 *1 *2	空白
タイムアウト	ドメインコントローラとの接続タイムアウト時間を設定します。 *1	120
ドメインコントローラサーバ 1	ドメインコントローラサーバ 1 の有効 / 無効を選択します。 *1 *3	有効
サーバアドレス 1	ドメインコントローラサーバ 1 の IP アドレスを設定します。 *1 *4	空白
ドメインコントローラサーバ 2	ドメインコントローラサーバ 2 の有効 / 無効を選択します。 *1 *3	無効
サーバアドレス 2	ドメインコントローラサーバ 2 の IP アドレスを設定します。 *1 *4	空白
ドメインコントローラサーバ 3	ドメインコントローラサーバ 3 の有効 / 無効を選択します。 *1 *3	無効
サーバアドレス 3	ドメインコントローラサーバ 3 の IP アドレスを設定します。 *1 *4	空白

項目名	意味
グループ設定 *1	登録されているグループの一覧を表示します。
No	グループに割り当てられている番号を表示します。
グループ名	グループ名を表示します。
グループドメイン	Active Directory のドメイン名を表示します。
権限	グループの権限を表示します。
編集 *1	グループ情報を追加または変更します。
削除 *1 *5	グループ情報を削除します。

*1: Active Directory 認証が "有効" の場合にのみ設定できます。

*2: 255 文字までの半角英数字、「-」、「_」及び「.」のみ設定することができます。

*3: Active Directory 認証が "有効" の場合は、1 つ以上のドメインコントローラサーバを有効にする必要があります。

*4: ドメインコントローラサーバが "有効" の場合にのみ設定できます。

*5: グループが存在する場合にのみ削除可能です。

チェック：

- Off-line TOOL では、グループの削除は、次のグループ設定画面で行います。

5.2.6 グループ

選択したグループの設定を行います。Active Directory が有効の場合にのみ設定できます。最大 5 グループまで登録することができます。

項目名	意味	デフォルト値
グループ設定	グループの設定です。	
グループ名	グループ名を設定します。 *1	空白
グループドメイン	グループドメインを設定します。 *2	空白
権限	グループの権限を選択します。 アドミニストレータ オペレータ ユーザ	アドミニストレータ

*1: 255 文字までの半角英数字、「-」及び「_」のみ設定することができます。
*2: 255 文字までの半角英数字、「-」、「_」及び「.」のみ設定することができます。

5.2.7 LDAP

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) に関する表示と設定を行います。

BMC ユーザーズガイド

ネットワーク0

サービス0

ネットワーク1

サービス1

ユーザアカウント

Active Directory

LDAP

メール通報

SNMP通報

システム操作

制御

その他

LDAP設定

LDAP認証

☒有効

☐無効

IPアドレス

[必須]

ポート番号

[必須]

389

(1 - 65535)

サーチベース

[必須]

バインドドメイン名

[必須]

バインドパスワード

[必須]

デフォルト設定

適用

キャンセル

項目名	意味	デフォルト値
LDAP 設定	LDAP の設定です。	
LDAP 認証	LDAP 認証の有効 / 無効を選択します。	無効
IP アドレス	IP アドレスを設定します。 *1	0.0.0.0
ポート番号	LDAP ポート番号を設定します。 *1	636
サーチベース	LDAP 認証で使用するサーチベースを設定します。 *1 *2	空白
バインドドメイン名	LDAP 認証で使用するバインドドメインを設定します。 *1 *2	空白
バインドパスワード	LDAP 認証で使用するバインドパスワードを設定します。 *1 *3	空白

*1: LDAP 認証が有効の場合にのみ設定できます。

*2: 4 文字以上 62 文字以下の半角英数字、「-」、「_」、「.」、「,」及び「=」のみ設定することができます。

*3: 4 文字以上 31 文字以下の半角英数字で、「"」、「#」及び「¥」を除く文字列を設定することができます。

5.2.8 メール通報

BMC からの E メールによる通報の表示と設定を行います。

BMC コンフィグレーション

ネットワーク0 | サービス0 | ネットワーク1 | サービス1 | ユーザーアカウント | Active Directory

LDAP | **メール通報** | SNMP通報 | システム操作 | 制御 | その他

メール通報設定

通報 ☐ 有効 ☒ 無効

通報テスト

SMTPサーバ応答待ち時間 **[必須]** 秒 (30 - 600)

メール設定

☒ 宛先 1 (To) **[必須]**

☐ 宛先 2 (To) **[必須]**

☐ 宛先 3 (To) **[必須]**

差出人 (From)

返信先 (Reply-To)

件名 (Subject)

SMTPサーバ設定

SMTPサーバ

*IPアドレス、または、ドメイン名を入力してください。

SMTPポート **[必須]** / (SMTPS)

デフォルト設定 適用 キャンセル

BMC コンフィグレーション

ネットワーク0 | サービス0 | ネットワーク1 | サービス1 | ユーザーアカウント | Active Directory

LDAP | **メール通報** | SNMP通報 | システム操作 | 制御 | その他

SMTPポート **[必須]** (1 - 65535)

SMTP認証 ☐ 有効 ☒ 無効

☒ CRAM-MD5 ☒ LOGIN ☒ PLAIN

ユーザ名 **[必須]**

パスワード **[必須]**

通報レベル設定

通報レベル

	宛先1	宛先2	宛先3
温度(閾値監視)			
異常	☒	☒	☒
警告	☐	☐	☐
情報	☐	☐	☐
電圧(閾値監視)			
異常	☒	☒	☒
警告	☐	☐	☐
情報	☐	☐	☐
ファン(回転数)			
異常	☒	☒	☒
警告	☐	☐	☐
情報	☐	☐	☐

デフォルト設定 適用 キャンセル

項目名	意味	デフォルト値
メール通報設定	メール通報の設定です。	
通報	通報の有効 / 無効を選択します。	無効
SMTP サーバ応答待ち時間	E メール送信を行って SMTP サーバへの接続が成功するまでのタイムアウト時間を設定します。	30
メール設定	メールヘッダの設定です。	
宛先 1 (To)	宛先 1 の有効 / 無効を選択します。 *1	有効
宛先 1 メールアドレス	宛先 1 のメールアドレスを設定します。 *2 *3	空白
宛先 2 (To)	宛先 2 の有効 / 無効を選択します。 *1	無効
宛先 2 メールアドレス	宛先 2 のメールアドレスを設定します。 *2 *3	空白
宛先 3 (To)	宛先 3 の有効 / 無効を選択します。 *1	無効
宛先 3 メールアドレス	宛先 3 のメールアドレスを設定します。 *2 *3	空白
差出人 (From)	差出人のメールアドレスを設定します。 *3	空白
返信先 (Reply-To)	返信先のメールアドレスを設定します。 *3	空白
件名 (Subject)	件名を設定します。 *4	空白
SMTP サーバ設定	SMTP サーバの設定です。	
SMTP サーバ	SMTP サーバを設定します。 *5	0.0.0.0
SMTP ポート	SMTP ポート番号を設定します。	25
SMTP 認証	SMTP 認証の有効 / 無効を選択します。	無効
CRAM-MD5	認証方式(CRAM-MD5)の有効 / 無効を選択します。 *6 *7	有効
LOGIN	認証方式(LOGIN)の有効 / 無効を選択します。 *6 *7	有効
PLAIN	認証方式(PLAIN)の有効 / 無効を選択します。 *6 *7	有効
ユーザ名	SMTP ユーザ名を設定します。 *6 *8	空白
パスワード	SMTP パスワードを設定します。 *6 *9	空白
通報レベル設定	通報レベルの設定です。	
通報レベル	通報されるイベントの種類を設定します。 *10	異常 / 警告
通報テスト	メールでの通報テストを実行します。	

*1: メール通報が "有効" の場合は、1 つ以上の宛先を有効にする必要があります。

*2: 宛先が "有効" の場合にのみ設定できます。

*3: 255 文字までの半角英数字、「-」_「.」及び「@」のみ設定することができます。

*4: 63 文字までの半角英数字で、「+」_「?」_「=」_「<」_「>」_「#」及び「¥」を除く文字列を設定することができます。

*5: 255 文字までの半角英数字、「-」_「.」のフルドメイン名、または IP アドレスを設定することができます。

*6: SMTP 認証が "有効" の場合にのみ設定できます。

*7: SMTP 認証が "有効" の場合は、1 つ以上の認証方式を有効にする必要があります。

*8: 64 文字までの半角英数字で、「」(空白)、「"」_「?」_「=」_「<」_「>」_「#」及び「¥」を除く文字列を設定することができます。

*9: 19 文字までの半角英数字で、「」(空白)、「"」_「?」_「=」_「<」_「>」_「#」及び「¥」を除く文字列を設定することができます。

*10: 通報レベルは以下の通りです。

通報レベル	意味
異常	各センサタイプで "異常" を検出した場合、宛先 1~3 のうちチェックを入れた宛先に通報する設定になります。
異常/警告	各センサタイプで "異常" または "警告" を検出した場合、宛先 1~3 のうちチェックを入れた宛先に通報する設定になります。
異常/警告/情報	各センサタイプで "異常"、"警告" または "情報" を検出した場合、宛先 1~3 のうちチェックを入れた宛先に通報する設定になります。
個別設定	各センサタイプに、通報するイベント、宛先を任意に設定することができます。

5.2.9 SNMP通報

BMC からの SNMP による通報の表示と設定を行います。

BMC コンフィグレーション

ネットワーク0 | サービス0 | ネットワーク1 | サービス1 | ユーザーアカウント | Active Directory
LDAP | メール通報 | **SNMP通報** | システム操作 | 制御 | その他

*PEF設定が無効のため、SNMP通報を行えません。

SNMP通報設定

通報 ☐ 有効 ☒ 無効

通報テスト

コンピュータ名

コミュニティ名

通報手順 ☒ 1つの通報先 ☐ 全ての通報先

通報応答確認 ☐ 有効 ☒ 無効

通報リトライ回数 回 (0 - 7)

通報タイムアウト 秒 (0 - 30)

通報先

☒ 1次通報先IPアドレス [必須]

☒ 2次通報先IPアドレス [必須]

☒ 3次通報先IPアドレス [必須]

通報レベル設定

デフォルト設定 適用 キャンセル

BMC コンフィグレーション

ネットワーク0 | サービス0 | ネットワーク1 | サービス1 | ユーザーアカウント | Active Directory
LDAP | メール通報 | **SNMP通報** | システム操作 | 制御 | その他

通報先

☒ 1次通報先IPアドレス [必須]

☒ 2次通報先IPアドレス [必須]

☒ 3次通報先IPアドレス [必須]

通報レベル設定

通報レベル

	異常	警告	情報
温度(閾値監視)		☒	☐
電圧(閾値監視)		☒	☐
ファン(回転数)		☒	☐
プロセッサ		☒	☐
電源モジュール		☒	☐
電源ユニット(状態監視)		☒	☐
メモリ		☒	☐
POST		☒	☐
ログ			☐
システムイベント			☐
異常系列の読み込み	☒		☐

デフォルト設定 適用 キャンセル

項目名	意味	デフォルト値
SNMP 通報設定	SNMP 通報の設定です。	
通報 *1	通報の有効 / 無効を選択します。	無効
コンピュータ名	コンピュータ名を設定します。 *2	空白
コミュニティ名	コミュニティ名を設定します。 *2	public
通報手順	通報手順を 1 つの連絡先 / 全ての通報先から選択します。	1 つの通報先
通報応答確認	通報応答確認の有効 / 無効を選択します。	有効
通報リトライ回数	通報リトライ回数を設定します。 *3	3
通報タイムアウト	通報タイムアウトを設定します。 *3	6
通報先	通報先の設定です。	
1 次通報先	1 次通報先の有効 / 無効を選択します。 *4	有効
IP アドレス	1 次通報先 IP アドレスを設定します。 *5	0.0.0.0
2 次通報先	2 次通報先の有効 / 無効を選択します。 *4	無効
IP アドレス	2 次通報先 IP アドレスを設定します。 *5	0.0.0.0
3 次通報先	3 次通報先の有効 / 無効を選択します。 *4	無効
IP アドレス	3 次通報先 IP アドレスを設定します。 *5	0.0.0.0
通報レベル設定	通報レベルの設定です。	
通報レベル	通報されるイベントの種類を設定します。 *6	異常 / 警告
通報テスト	SNMP での通報テストを実行します。	

*1: PEF(Platform Event Filter)設定 が "無効" の場合は、通報できません。

*2: 16 文字までの半角英数字のみ設定することができます。

*3: 通報応答確認が "有効" の場合にのみ設定できます。

*4: SNMP 通報が "有効" の場合は、1 つ以上の通報先を有効にする必要があります。

*5: 通報先が "有効" の場合にのみ設定できます。

*6: 通報レベルは以下の通りです。

通報レベル	意味
異常	各センサタイプで "異常" を検出した場合、チェックを入れた通報先に、通報する設定になります。
異常/警告	各センサタイプで "異常" または "警告" を検出した場合、チェックを入れた通報先に、通報する設定になります。
異常/警告/情報	各センサタイプで "異常"、"警告" または "情報" を検出した場合、チェックを入れた通報先に、通報する設定になります。
個別設定	各センサタイプに、通報するイベントを任意に設定することができます。

5.2.10 システム操作

リモート KVM コンソール及びリモートメディアに関する設定を行います。

BMC コンフィグレーション

ネットワーク0	サービス0	ネットワーク1	サービス1	ユーザアカウント	Active Directory
LDAP	メール通報	SNMP通報	システム操作	制御	その他

リモートKVMコンソール設定

暗号化 ☐ 有効 ☒ 無効

ポート番号(暗号化無効時) **[必須]** (1024 - 65535)

ポート番号(暗号化有効時) **[必須]** (1024 - 65535)

マウスカーソルモード ☐ Single ☒ Dual

マウス座標モード ☐ Relative ☒ Absolute
*装置のOSがWindowsの場合はAbsolute、Linuxの場合はRelativeを推奨します。

キーボード言語

リモートメディア設定

暗号化 ☐ 有効 ☒ 無効

ポート番号(暗号化無効時)

リモートCD/DVD **[必須]** (1024 - 65532)

リモートUSBメモリ

デフォルト設定

BMC コンフィグレーション

ネットワーク0	サービス0	ネットワーク1	サービス1	ユーザアカウント	Active Directory
LDAP	メール通報	SNMP通報	システム操作	制御	その他

推奨します。

キーボード言語

リモートメディア設定

暗号化 ☐ 有効 ☒ 無効

ポート番号(暗号化無効時)

リモートCD/DVD **[必須]** (1024 - 65532)

リモートUSBメモリ

リモートFD

ポート番号(暗号化有効時)

リモートCD/DVD **[必須]** (1024 - 65532)

リモートUSBメモリ

リモートFD

デフォルト設定

項目名	意味	デフォルト値
リモート KVM コンソール設定	リモート KVM コンソールの設定です。	
暗号化	暗号化の有効 / 無効を選択します。	有効
ポート番号(暗号化無効時)	暗号化無効時のポート番号を設定します。 *1	7578
ポート番号(暗号化有効時)	暗号化有効時のポート番号を設定します。 *1	7582
マウスカーソルモード	マウスカーソルの表示モードを選択します。 Single Dual	Dual
マウス座標モード	マウスカーソルの座標移動の表現方法を選択します。 *2 Relative Absolute	Windows : Absolute Linux, Offline : Relative
キーボード言語	キーボード言語を選択します。 Japanese(JP) English(US) French(FR) German(DE)	Windows, Linux : Japanese(JP) *3 Offline : English(US)
リモートメディア設定	リモートメディアの設定です。	
暗号化	暗号化の有効 / 無効を選択します。	有効
リモート CD/DVD ポート番号 (暗号化無効時)	暗号化無効時のリモート CD/DVD ポート番号を設定します。 *1	5120
リモート USB メモリポート 番号(暗号化無効時)	暗号化無効時のリモート USB メモリポート番号を表示します。(リモート CD/DVD ポート番号 + 2)	
リモート FD ポート番号(暗号 化無効時)	暗号化無効時のリモート FD ポート番号を表示します。(リモート CD/DVD ポート番号 + 3)	
リモート CD/DVD ポート番号 (暗号化有効時)	暗号化有効時のリモート CD/DVD ポート番号を設定します。 *1	5124
リモート USB メモリポート 番号(暗号化有効時)	暗号化有効時のリモート USB メモリポート番号を表示します。(リモート CD/DVD ポート番号 + 2)	
リモート FD ポート番号(暗号 化有効時)	暗号化有効時のリモート FD ポート番号を表示します。(リモート CD/DVD ポート番号 + 3)	

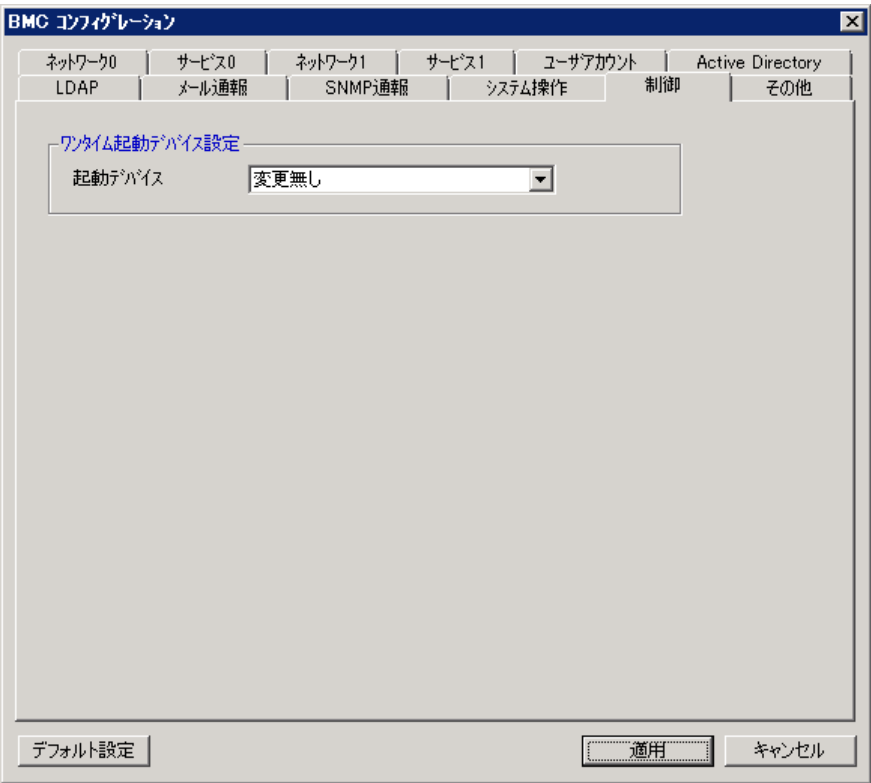
*1: 各ポート番号は重複させることができません。

*2: OS が Windows の場合は Absolute モード、Linux の場合は Relative モードが推奨です。

*3: OS の言語が日本語以外の場合は English(US)になります。

5.2.11 制御

管理対象サーバの制御を行います。設定値は、次に管理対象サーバが起動するときに適用されます。



項目名	意味	デフォルト値
ワンタイム起動デバイス設定	ワンタイム起動デバイスの設定です。	
起動デバイス *1	次回起動するデバイスを選択します。	変更無し

*1: 起動デバイスは以下の通りです。

起動デバイス	意味
変更無し	管理対象サーバのシステム BIOS の設定に従います。
PXE	PXE Boot を行います。
HDD	管理対象サーバに接続されたハードディスクドライブから起動します。
CD/DVD	管理対象サーバに接続された CD/DVD ドライブから起動します。
リモート FD	リモートメディア機能で接続されたフロッピーディスクドライブ(メディア)から起動します。
リモート CD/DVD	リモートメディア機能で接続された CD/DVD ドライブ(メディア)から起動します。
リモート USB メモリ	リモートメディア機能で接続された USB メモリから起動します。
FD	管理対象サーバに接続されたフロッピーディスクドライブ、またはリムーバブルメディアから起動します。

チェック：

- Off-line TOOL には、この設定はありません。

5.2.12 その他

BMC の様々な機能の設定を行います。

The screenshot shows the 'BMC コンフィグレーション' (BMC Configuration) window. It has several tabs at the top: ネットワーク0, サービス0, ネットワーク1, サービス1, ユーザーアカウント, Active Directory, LDAP, メール通報, SNMP通報, システム操作, 制御, and その他. The 'SNMP通報' tab is selected. Below the tabs, there are four main sections:

- SEL設定**: SEL領域Full時の動作. Options: ☒ SELの記録停止, ☐ SELの全クリア, ☐ 古いSELを上書き.
- 電源オプション設定**: AC-LINK. Options: ☐ Stay Off, ☒ Last State, ☐ Power On. Delay time (遅延時間) is set to 50 seconds (秒 (50 - 600)).
- PEF設定**: Platform Event Filter. Options: ☐ 有効, ☒ 無効. Note: *PEF(Platform Event Filter)が無効の場合は、SNMP通報を行えません。
- 管理ソフトウェア設定**: ESMPROから管理. Options: ☐ 有効, ☒ 無効. Authentication key (認証キー) is required (必須). Refresh (リフレッシュ) options: ☒ 有効, ☐ 無効.

At the bottom, there are buttons for 'デフォルト設定' (Default Settings), '適用' (Apply), and 'キャンセル' (Cancel).

項目名	意味	デフォルト値
SEL 設定	SEL の設定です。	
SEL 領域 Full 時の動作	SEL 領域が一杯になった場合の動作を選択します。 *1 SEL の記録停止 ：それ以上の SEL を記録しない。 SEL の全クリア ：SEL を全て削除し、改めて SEL 記録を行う。 古い SEL を上書き ：古い SEL を新しい SEL で上書きする。	SEL の記録停止
電源オプション設定	電源オプションの設定です。	
AC-Link	AC-Link の設定を選択します。 Stay Off ：DC 電源オンを行わない。 Last State ：AC 電源オフした時と同じ電源状態になる。 Power On ：常に DC 電源オンを行う。	Last State
遅延時間	遅延時間を指定します。設定可能な値は、(最小値 ~ 600)です。 *2	最小値
PEF 設定	PEF の設定です。	
Platform Event Filter	Platform Event Filter の有効 / 無効を選択します。 *3	有効
管理ソフトウェア設定	管理ソフトウェアの設定です。	
ESMPRO から管理	ESMPRO から管理の有効 / 無効を選択します。 *4	現在の設定値
認証キー	認証キーを指定します。 *5 *6	guest

リダイレクション	リダイレクションの有効 / 無効を選択します。 *5 リダイレクションを有効に設定すると、BIOS 設定のコンソールリダイレクションポートがシリアルポート B に設定されます。	有効
----------	---	----

*1: "古い SEL を上書き" から、または "古い SEL を上書き" へ変更した場合、SEL はクリアされます。

*2: AC-Link が "Stay Off" の場合は設定できません。AC 電源オンから DC 電源オンするまでの遅延時間を指定します。最大 600(秒)まで設定できます。最小値は装置によって異なります。

*3: "無効" にした場合、SNMP 通報はできなくなります。

*4: ESMPRO/ServerManager(Ver.5.61 以降)から、BMC を直接管理できるようにする場合、"有効"に設定します。有効に設定する場合は、必ず認証キーも設定してください。

*5: "ESMPRO から管理" が有効の場合にのみ設定できます。

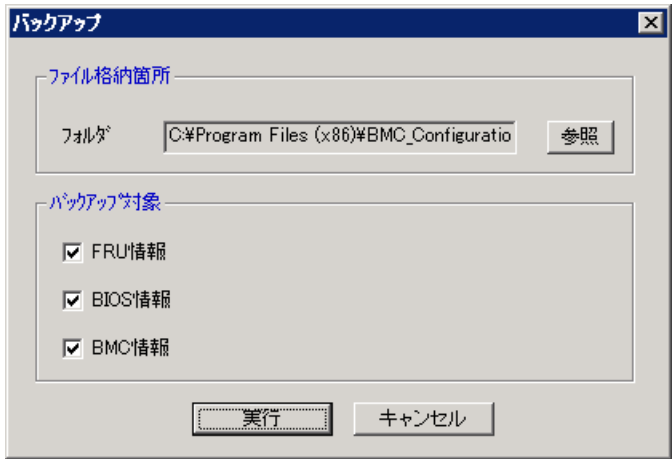
*6: ESMPRO/ServerManager(Ver.5.61 以降)から、管理対象サーバを管理する場合の認証キーです。16 文字までの半角英数字のみ設定することができます。

チェック：

- Off-line TOOL には、電源オプション設定はありません。

5.3 バックアップ

システム情報をファイルにバックアップします。バックアップ対象を選択し、実行ボタンをクリックしてください。



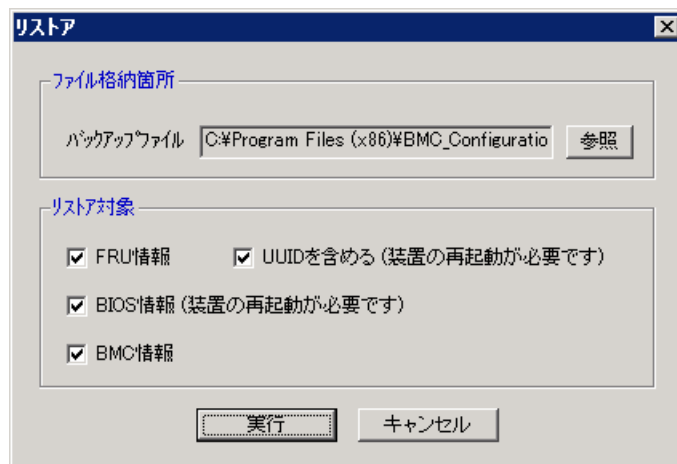
項目名	意味
ファイル格納箇所	ファイル格納箇所を指定します。
フォルダ	ファイルの保存先ディレクトリを表示します。
参照	ファイルの保存先を変更します。
バックアップ対象	バックアップ対象を指定します。
FRU 情報	FRU 情報をバックアップするかどうかを選択します。
BIOS 情報	BIOS 情報をバックアップするかどうかを選択します。
BMC 情報	BMC 情報をバックアップするかどうかを選択します。

チェック：

- Off-line TOOL には、バックアップ機能はありません。

5.4 リストア

システム情報をファイルからリストアします。リストア対象を選択し、実行ボタンをクリックしてください。



項目名	意味
ファイル格納箇所	ファイル格納箇所を指定します。
バックアップファイル	ファイルを表示します。
参照	ファイルを変更します。
リストア対象	リストア対象を指定します。
FRU 情報	FRU 情報をリストアするかどうかを選択します。対象のバックアップ情報が存在する場合のみ、選択可能になります。
UUID を含める	FRU 情報をリストアする際に、UUID をリストアするかどうかを選択します。FRU 情報が選択されており、かつ、対象のバックアップ情報が存在する場合のみ、選択可能になります。 *1
BIOS 情報	BIOS 情報をリストアするかどうかを選択します。対象のバックアップ情報が存在する場合のみ、選択可能になります。
BMC 情報	BMC 情報をリストアするかどうかを選択します。対象のバックアップ情報が存在する場合のみ、選択可能になります。

*1: UUID をリストアすると、BMC がリセットされます。この場合、BMC が再起動するまで数分かかります。また、設定を反映するには、装置の再起動が必要です。

重要：

- 本操作によってデータが失われる可能性があります。保守員以外は実行しないでください。
- 本操作実行後の数分間にシステムのシャットダウンやリブート等の各種操作を実行すると、装置によっては HW 異常が誤検出される場合があります。詳細は各装置のユーザーズガイドを参照してください。

チェック：

- バックアップ機能でバックアップしたファイルが必要です。
- Off-line TOOL には、リストア機能はありません。

5.5 BMC設定の初期化

Off-line TOOL で BMC Initialization を選択すると、一部を除くすべての BMC コンフィグレーションの設定を初期値に戻すことができます。初期化を実行した場合は、BMC が再起動するまで数分かかります。

重要：

- 本操作によってデータが失われる可能性があります。
 - 本操作実行後の数分間にシステムのシャットダウンやリブート等の各種操作を実行すると、装置によっては HW 異常が誤検出される場合があります。詳細は各装置のユーザーズガイドを参照してください。
-

チェック：

- 本操作は、ft サーバでは Off-line TOOL でのみ可能です。
 - CPU/IO モジュール 0 と 1 のどちらも初期化されます。
-

5.6 BMCのリセット

Off-line TOOL で BMC Reset を選択すると、BMC をリセットすることができます。リセットを実行した場合は、BMC が再起動するまで数分かかります。

重要：

- 本操作は、BMC の機能が正しく動作しないときなどで使用してください。
 - 本操作によって BMC の設定値は変更されません。
 - 本操作実行後の数分間にシステムのシャットダウンやリブート等の各種操作を実行すると、装置によっては HW 異常が誤検出される場合があります。詳細は各装置のユーザーズガイドを参照してください。
-

チェック：

- 本操作は、ft サーバでは Off-line TOOL でのみ可能です。
 - 本操作は、CPU/IO モジュール 0 と 1 でそれぞれ別々に実施します。
-

6. 機能(メニーコアサーバ)

この章では BMC Configuration をメニーコアサーバで使用する場合の機能について説明します。標準的なサーバについては、4 章を参照してください。

6.1 起動方法

6.1.1 Windows

以下の方法で BMC Configuration のメインダイアログボックスを起動できます。

管理者(Administrator)権限で実行してください。

・ Windows のスタートメニューから、「BMC_Configuration」 - 「BMC Configuration」をクリックする。

以下は画面例です。



ヒント:

- BMC Configuration のヘルプは、以下から参照することができます。

Windows のスタートメニューから、「BMC_Configuration」 - 「BMC Configuration Help」をクリックする。

6.1.2 Linux

以下の方法で BMC Configuration を起動できます。
root ユーザで実行してください。

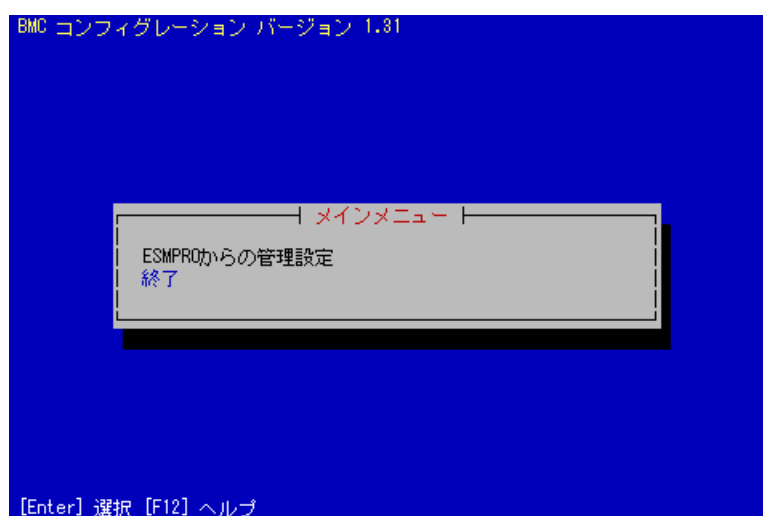
日本語を表示できるターミナルの場合 (以下は文字コードが UTF-8 の場合) :

```
LANG=ja_JP.UTF-8  
/opt/nec/BMC_Configuration/bmcconf -ja
```

日本語を表示できないターミナルの場合 :

```
/opt/nec/BMC_Configuration/bmcconf
```

以下は画面例です。



ヒント :

- BMC Configuration のヘルプは、以下から参照することができます。

BMC Configuration を起動後、画面下部に「[F12] ヘルプ」と表示されている画面で、「F12」キーを押す。

6.2 ESMPROからの管理設定

管理対象サーバを ESMPRO/ServerManager からリモート管理するための設定を行います。



項目名	意味	デフォルト値
ESMPRO からの管理設定	ESMPRO から管理するための設定です。	
認証キー	認証キーを指定します。 *1	guest

*1: ESMPRO/ServerManager(Ver.5.65 以降)から、管理対象サーバを管理する場合の認証キーです。16文字までの半角英数字のみ設定することができます。

7. 注意事項

7.1 BMC Configurationのインストール

- ・ BMC Configuration (Windows, Linux)は、現在インストールされているバージョンから古いバージョンへダウングレードできません。古いバージョンを使う場合は、一旦アンインストールしてから、再度インストールしてください。ただし、アンインストールした場合、登録済みの情報はすべて削除されますのでご注意ください。
- ・ BMC Configuration (Windows)を CD/DVD 等のディスク上のインストーラを使用してアップグレードする場合に、媒体を要求するメッセージが表示されて、アップグレードできない場合があります。この場合、CD/DVD 等のディスクからハードディスクドライブ上にインストーラをコピーしてからアップグレードしてください。

7.2 HTTP、HTTPS設定

- ・ BMC のサービス設定において、HTTP を有効とすると HTTPS も自動で有効となります。HTTP のみを有効に設定することはできません。

7.3 リダイレクション設定

- ・ BMC のその他設定において、管理ソフトウェア設定のリダイレクションを有効で適用すると、システム BIOS のコンソールリダイレクションポートの次回起動時設定がシリアルポート B となります。

7.4 PEF設定とSNMP通報設定

- ・ BMC のその他設定において、PEF を無効で適用すると、SNMP 通報が無効となります。また、SNMP 通報を有効で適用すると、PEF が有効となります。

7.5 BMC通報

- ・ BMC コンフィグレーション項目の「通報」を有効にした場合、指定された「通報レベル」のイベントが発生したときに、BMC が指定された「通報先」に対して直接通報を行います。
- ・ SNMP 通報の場合は、通報先に ESMPRO/ServerManager または ESMPRO/ServerManager 連携機能がインストールされていると、BMC からの通報が ESMPRO のアラートマネージャに登録されます。BMC からの通報は、管理対象サーバに ESMPRO/ServerAgent がインストールされているかどうかによって動作が異なります。
 - (1)ESMPRO/ServerAgent がインストールされている場合
BMC は管理対象サーバの OS が起動していない状態のときに、指定された「通報レベル」のイベントが発生した場合、通報を行います。
OS 上で ESMPRO/ServerAgent が起動している場合、ESMPRO/ServerAgent がイベント発生時の通報処理を行うため、BMC は通報先への通報を行いません。
 - (2)ESMPRO/ServerAgent がインストールされていない場合
BMC は、OS の状態に関わらず、指定された「通報レベル」のイベントが発生した場合、常に通報先に対して通報を行います。

7.6 通報テスト

- ・ 通報テストは、通報の設定をすべて完了させた後に実施してください。使用されるネットワークや通報先の設定によっては、通報機能をご利用になれないことがあります。

7.7 ECO設定

- ・ 電力値は、閾値にまで達しない場合があります。電力制御は、CPU/メモリの周波数を下げることによりシステムの消費電力を下げます。CPU/メモリのスロットリング値が 100%に達している場合には、それ以上には電力値は上がりません。
- ・ Aggressive Mode の電力閾値(Power Threshold(Pa))に装置の起動に必要な電力値より低い値を設定し、シャットダウンを有効にした場合、装置が正常に起動しなくなる場合があります。本設定を有効にするときは、"Power Threshold(Pa)"の設定値に十分に考慮した値を設定することを推奨します。
- ・ 以下の場合、ECO 設定は未サポートとなり表示されません。
OS が Windows Server 2003(R2)、かつ、ESMPRO/ServerAgent がインストールされている場合

7.8 管理用LAN設定

- ・ "Shared BMC LAN" を設定した場合、BMC 専用の LAN ポートは使用できません。
- ・ "Shared BMC LAN" を設定した場合、システム(OS)の LAN ポートを共有して使用するために、システム(OS)のLANの負荷によりBMCが使用するLANの性能が低下する可能性があります。また、BMC が使用する LAN の負荷によりシステム(OS)の LAN の性能が低下する可能性があります。

7.9 その他設定

- ・ BIOS セットアップユーティリティ → Server メニュー → Power On Delay Time の設定値が 100 以上の場合、Off-line TOOL の BMC Configuration で Miscellaneous 設定を実施するとエラーが発生する場合があります。この場合は、BIOS セットアップユーティリティにおいて、"Power On Delay Time" をいったん 99 以下に設定してから、Miscellaneous 設定を実施してください。その後、必要に応じて再度 "Power On Delay Time" を設定してください。

7.10 ネットワーク設定、サービス設定

- ・ EXPRESSSCOPE エンジン SP3 においてネットワーク設定もしくはサービス設定を変更した際に、システムの負荷状況によっては、エラーが発生する場合があります。この場合は、設定内容を確認し、必要に応じて再度設定を実施してください。

7.11 デフォルト設定

- ・ BMC 設定の初期化(BMC Configuration Initialization)実行時に設定される値と、BMC Configuration でのデフォルト設定値の差分につきましては、該当する EXPRESSSCOPE エンジンのユーザーズガイドを参照してください。

7.12 キー入力

- ・ Off-line TOOL 起動時に、キーボード種別 "Japanese" を選択した場合、「¥」「|」「_」を入力することはできません。
- ・ BMC Configuration (Windows)において、「%」を含む文字列を設定する場合は、「%」を「%%」と入力する必要があります。

Revision History

1.00	2011/05/10	初版
1.01	2011/06/24	ECO 設定の注意事項を追加 管理用 LAN 設定の注意事項を追加 RHEL6(x64)での必要パッケージを追加 表紙変更、誤記修正
1.02	2011/10/14	メール通報及び ECO 設定を修正 ECO 設定の注意事項を修正 誤記修正
1.10	2012/02/29	ユーザアカウント、ユーザ、Active Directory、グループ、LDAP 及びシステム操作 設定を追加 ネットワーク、ECO 及びその他設定を修正 SEL 消去を追加 BMC 設定の初期化を修正 デフォルト設定の注意事項を追加 誤記修正
1.11	2012/05/25	ECO 設定を修正(旧項目名を併記) インストール手順を修正 誤記修正
1.20	2012/08/22	ft サーバでの機能を追加 動作環境を修正 誤記修正
1.21	2012/11/12	動作環境を修正 ECO 設定を修正 BMC 設定の初期化を修正 デフォルト設定の注意事項を修正 誤記修正
1.30	2012/11/16	概要及び動作環境を修正 メニュー構成及び項目名を変更 バッテリー設定を追加 デフォルト設定の注意事項を修正 誤記修正
1.31	2013/02/13	メニーコアサーバ(HR120a-1)での機能を追加 誤記修正
1.32	2013/04/03	ECO 設定を修正 デフォルト設定の注意事項を修正 誤記修正
1.33	2013/08/06	メニーコアサーバの対象 OS に Windows を追加 BMC 設定の初期化及び BMC リセットを修正 ECO 設定の注意事項を修正 誤記修正
1.34	2013/09/05	BMC 設定の初期化及び BMC リセットを修正 ft サーバのリストアを修正 その他設定の注意事項を追加 誤記修正
1.40	2014/01/07	動作環境を修正 EXPRESSSCOPE エンジン SP3 での機能を追加 ネットワーク/サービス設定の注意事項を追加 誤記修正
1.41	2014/06/12	キー入力の注意事項を追加 誤記修正
1.42	2015/03/04	動作環境を修正

